



同窓会挨拶

福島東高等学校同窓会副会長

手塚 健一



皆様におかれましては、日ごろより同窓会活動にご理解ご協力を賜り、心より感謝御礼申し上げます。また、各会員の皆様、職域の同窓会の皆様より「東高応援基金」にたくさんのご協賛をいただいております、重ねて御礼申し上げます。

さて、開学以来からの精神である文武両道の精神のもと、本年度（令和四年度三月卒業生）の進路については、六クラス体制となりましたが国公立大学が八四名の合格、私立大学には二七三名が合格し、その中には難

関私立大学の合格者もあり、高い進学実績を残されました。

部活動については、全国大会出場は山岳部・書道部・美術部。こちらの各部には、同窓会より激励金を贈らせていただきました。

東北大会出場は、団体戦での出場が創部以来初となる柔道部。テニス部・陸上部。

学校生活も、新型コロナウイルスが五類に移行したことに伴って、従来と同様の規模、内容に戻り、文化祭、スポーツ大会、マラソン大会なども開催されました。

「青春って、すごく密なので」の仙台育英野球部 須江監督さんのことばの通りようやく東高在校生にも普段通りの毎日が訪れているようです。

最近、役員会等で私が学校を

訪れる際に率直に感じる事を少しお話しします。

①以前より掃除が行き届いているなど。私事で恐縮ですが、私は第五期の卒業生なのですが、その頃は男子校でありました。故に掃除の時間はありましたが、部屋の隅々まできれいにとはとても言い難い状況でありました。一九九五年に男女共学になり、現在は男子在校生約六〇％女子在校生四〇％の割合。共学化の良影響？いずれにせよ通学用の自転車置き場まで整頓がなされています。

②学校内各教室にはエアコンが設置されています。私が在校当時エアコンはもちろんなく、短パン姿で、あるいはバケツに足を入れて授業を受ける輩も。「心頭滅却すれば火もまた涼し」うんぬん。暑さは我慢するもの、エアコンは贅沢だ言われた時代。今年のような猛暑では通用しないですね。隔世の感。

③学校と保護者さんや生徒と

過去の同窓会会報のバックナンバーは同窓会Webサイトで閲覧可能です。

下記QRコードを読み取るか、「福島東高校同窓会」で検索またはURLを直接入力してください。



同窓会活動は最上位に在校生の支援がありますがそれと同じ位に私達同窓生がそれぞれ、素晴らしい東高生時代の思い出を人に語り、語らずとも思いを馳せるだけでもいまを生きる在校生にエールを送ることになるのでは？いかがでしょうか？

戻れるなら
In my life again
目に浮かぶのは better days
(有名なヒット曲歌詞一部引用 失礼します)

今思えば素晴らしい高校時代でした。友人・先生方・親に感謝の気持ちで一杯です。来たる二〇二四年二月久しぶりの開催となる同窓会総会が行われます。多くのみなさまにご参加賜り、絆を確かめ合う素晴らしい会になりますよう宜しくお願いします。とりとめないご挨拶の寄稿にお付き合いくださり誠にありがとうございました。

「変化」

福島東高等学校長 中野 茂



同窓会長様をはじめ、会員の皆様には、日頃より本校の教育活動に対してご支援とご協力をいただき感謝申し上げます。

また、日頃より本紙五ページにありますように、会員各個人、職場同窓会より「東高応援基金」に多くのご協賛をいただいております。そのほか、会員各位より物心両面にわたる支援をいただき、在校生は興味関心を持つて様々な活動に取り組み、本紙六ページ他でご報告申し上げますとおり、学習、進学、部活動において成果を上げることができております。あらためて感謝申し上げます。

コロナが五類に移行し、学校の教育活動も以前のような賑わいを取り戻してきております。同窓会のおかれても、令和六年二月十日に、実に四年ぶりの総会を開催すると伺っております。その際には改めてご挨拶申

上げます。

先日、東桜会（本校教職員OBで組織する会）でご挨拶する機会を得ました。同会顧問の齋藤和也先生、深澤陽一先生、会長の平岩典男先生、副会長の三浦昭二先生、根本幸夫先生をはじめ、本校に勤務された多くの先生方が出席され、本校の今昔（わかりやすく言えば、同窓会員の皆様のご活躍）を懐かしくお話になっていらっしゃいました。

また、齋藤和也先生には、ご来校いただいた上で、「私の人生はダブルヘッダー」視覚障がい者になって・21世紀に生きる東高生へ」という講演題で、本校三年生に直接お話をいただきましたところ、（詳しくはQRコードよりご覧下さい。以下、記事に関連するQRコードを掲載します。）



さて、昨年の本紙第十九号において、各学年のクラス数が六クラスとなったことについて、本校の変化のトピックとしてご紹介申し上げます。本年度については、県教育委員会

より本校が教育コースとして指定を受けたことが一つのトピックとなっています。

コース制は、普通科高校の特色化の一環として導入されたもので、教育コースについては県内で八校が指定を受けております。教員をはじめとした教育に関わる職業への理解や使命感を醸成するため、さまざまな教育プログラムを展開しております。特に、本校においては、小中学校と連携して、研究授業に教員側（見学者）として本校生とが参加する機会を独自に開発しております。

また、福島大学と連携して、教育に関わる講演をいただきます。講演者のお一人は同窓会員でいらつしやいました。

県教育委員会においても、「福島ならではの教育と「学びの変革」を推進する教育人材の育成を目指して、福島大学と連



携協定を締結し、将来的には、○教育コースを選択する高校生向けの特別プログラムの共同開発、○教育コースを選択する高校生への大学授業の提供等、高大接続事業の実施、○大学入試における地域教員希望枠の導入、○教職課程履修者への教育実習先として地域課題探究を推進している県立学校の提供、○公立学校教員採用候補者選考試験における大学特別選考の実施を構想しており、今後、詳細や具体的な内容は今後協議予定ということです。

会員の皆様のご子息、ご息女、あるいは、ご親類の中で、教員を志望するお子様がいらつしやいましたら、ぜひ、教育コースのある本校をご推薦下さいますようお願い申し上げます。

先ほど、同窓会員による教育講演について紹介いたしましたのが、他にも、多くの会員の皆様にご協力いただき、本校現役生徒への講話、講演をお願いしているところ、さまざまに職業でご活躍されているお話を聞くにつけ、会員の皆様の層の厚さ、多才さを感じているとこ



ろです。今後も、現役生への講話をお願い申し上げます。ですので、ご依頼申し上げた際には是非ご快諾下さるようお願いいたします。

本記事のQRコードは、昨年と違い、本年度より県が推奨しているnoteというサイトへリンクされています。ここでご紹介できなかった修学旅行やマラソン大会などの学校行事、また教育コース以外の特色ある教育活動については、本校noteに本年度の記事を掲載しておりますので、お時間があるときにご覧下さい。（お気に入りの記事があれば、ハートマークをクリックお願いします。）

今後とも様々な活動に取り組んでまいりますので、変わらぬご支援をお願いいたします。



福島県立福島東高等学校同窓会規約

〔名称および事務局〕

第1条 本会は福島県立福島東高等学校同窓会と称し、事務局を福島東高等学校内におく。

〔目的および事業〕

第2条 本会は会員相互の親睦を図り、母校の発展に寄与することを目的とする。

第3条 本会は次の事業を行う。

1. 総会の開催
2. 会員名簿・会報の発行
3. 母校の後援
4. その他本会の目的達成に必要な事項

〔会 員〕

第4条 本会の会員は、本校卒業生並びに本校の退校校者で総会に承認された者とする。

〔役 員〕

第5条 本会に次の役員をおく。

1. 会 長 1 名
2. 副会長 3～5 名
3. 理 事 若干名
4. 監 事 3 名
5. 幹 事 若干名

第6条 役員の選出は次のとおりとする。

1. 会長・副会長および監事は会員中より理事会において推薦し、総会で決定する。
2. 幹事は卒業年次毎に各クラスから2名を互選する。
3. 理事は幹事の中から会長が任命する。
4. 名誉会長は前会長とする。

第7条 役員の任務は次のとおりとする。

1. 会長は本会を代表し、会務を総理する。
2. 副会長は会長を補佐し、会長事故ある時は職務を代行する。
3. 理事は会の運営にたずさわり、会務を処理する。
4. 監事は会計を監査する。
5. 監事は他の役員を補佐し、会務運営の推進をはかる。

第8条 役員の任期は2年とし、再任を妨げない。

〔顧 問〕

第9条 本会に名誉会長と顧問をおける。顧問は会長が委嘱し、会長の諮問に応ずる。

〔総 会〕

第10条 総会は会長が召集し原則として年一回開く。ただし、会長が必要と認めた時は臨時総会を開くことができる。

第11条 総会では次の事項を審議し決定する。

1. 事業報告並びに決算の承認
2. 事業計画並びに予算の承認
3. 役員選出
4. 規約の改廃
5. その他重要な事項

第12条 総会の議事は出席者の過半数を持って決定する。

第13条 総会はその権限の一部を理事会または会長・副会長・監事で構成される役員会に委任することができる。

〔理事会〕

第14条 理事会は会長・副会長・監事・理事をもって構成する。

第15条 理事会は会長が召集し、本会運営上必要な事項を審議・決定するとともに本会の業務の執行にあたる。

〔事務局〕

第16条 事務局は関係表簿を備え、庶務、会計を執行する。

第17条 事務局はその業務の一部を母校職員に委嘱することができる。

〔会 計〕

第18条 本会の経費は入会金・終身会費・寄付金・その他の収入でまかなう。

第19条 本会は入会に際し、入会金6,000円・終身会費6,000円を納入する。

第20条 本会の会計年度は4月1日より翌年3月末日までとする。

第21条 年度会計決算ならびに年度予算案は会長・副会長・監事の了承をもって総会の承認にかえることができる。

附 則

1. この規約には次の規程が付属する。
 - 在校生支援規程

この規約は昭和58年2月28日から施行する。

この規約は平成28年6月6日から改正する。

令和4年度 歳入歳出決算書

歳入金額	5,412,029円
歳出金額	3,673,031円
差引残額	1,738,998円

1. 歳 入 ▲は増加 単位：円

項 目	4年度予算額	4年度歳入額	比較増減額	備 考
入 会 金	1,422,000	1,416,000	6,000	6,000円×236人
会 会 費	1,422,000	1,416,000	6,000	6,000円×236人
前年度繰越金	1,829,482	1,829,482	0	
雑 収 入	1,518	90	1,428	利息(¥90)
特別会計基金	0	0	0	
東高応援基金	800,000	750,457	49,543	クレジット(¥96,711)・コンビニ(¥481,742)郵便(¥162,004)・持参(¥10,000)
合 計	5,475,000	5,412,029	62,971	

2. 歳 出

項目(科目)	4年度予算額	4年度決算額	比較増減額	備 考
総 務 費	160,000	7,000	153,000	
会 議 費	150,000	7,000	143,000	役員会旅費
旅 費	10,000	0	10,000	会計監査、全国大会激励金贈呈式、同窓会入会式
需用費	0	0	0	
総 会 費	0	0	0	
運営費	0	0	0	総会中止
事 業 費	405,000	363,536	41,464	
卒業記念品費	180,000	181,326	▲1,326	卒業証書ホルダー
広告費	125,000	114,010	10,990	野球、サッカー、バスケット等の応援広告
サレ運営費	100,000	68,200	31,800	
会 報 費	680,000	606,430	73,570	
印刷費	600,000	528,550	71,450	会報印刷費
名簿管理費	80,000	77,880	2,120	平成24年度より外部業者へ委託
通 信 費	1,450,000	1,290,515	159,485	
会報郵送費	1,400,000	1,284,197	115,803	会報発送費
情報保護費	0	0	0	
通 信 費	50,000	6,318	43,682	連絡用はがき通信費
在校生支援費	2,180,000	1,005,550	1,174,450	
在 校 生 支援事業	1,000,000	825,550	174,450	全国大会激励金、定期演奏会等補助、部活動委員会支援
公開文化祭後援費	180,000	180,000	0	公開文化祭クラス支援
特別会計事業	1,000,000	0	1,000,000	
各種事業積立	400,000	400,000	0	
50周年事業積立	400,000	400,000	0	
特別会計積立	0	0	0	
予 備 費	200,000	0	200,000	
合 計	5,475,000	3,673,031	1,801,969	

* 項目科目間の流用を認める。

令和5年度 歳入歳出予算書

歳入金額	5,335,100円
歳出金額	5,335,100円
差引残額	0円

1. 歳 入 ▲は減少 単位：円

項 目	5年度予算額	4年度決算額	比較増減額	備 考
入 会 金	1,398,000	1,416,000	▲18,000	6,000円×233人
会 会 費	1,398,000	1,416,000	▲18,000	6,000円×233人
前年度繰越金	1,738,998	1,738,998	0	
雑 収 入	102	90	12	預金利息
特別会計基金	0	0	0	
東高応援基金	800,000	750,457	49,543	東高応援基金より
合 計	5,335,100	5,321,545	13,555	

2. 歳 出

項目(科目)	5年度予算額	4年度決算額	比較増減額	備 考
総 務 費	160,000	7,000	153,000	
会 議 費	150,000	7,000	143,000	役員会旅費
旅 費	10,000	0	10,000	入学式・卒業式等の役員旅費
需用費	0	0	0	
総 会 費	50,000	0	50,000	
運営費	50,000	0	50,000	
事 業 費	445,100	363,536	81,564	
卒業記念品費	190,100	181,326	8,774	卒業証書ホルダー
広告費	155,000	114,010	40,990	野球、サッカー、駅伝等の応援広告
サレ運営費	100,000	68,200	31,800	
会 報 費	680,000	606,430	73,570	
印刷費	600,000	528,550	71,450	会報印刷費
名簿管理費	80,000	77,880	2,120	平成24年度より外部業者へ委託
通 信 費	1,450,000	1,290,515	159,485	
会報郵送費	1,400,000	1,284,197	115,803	会報発送費
通 信 費	50,000	6,318	43,682	返信用はがき後納、切手等
在校生支援費	2,000,000	1,005,550	994,450	
在 校 生 支援事業	1,000,000	825,550	174,450	上限年額100万円の支援
公開文化祭後援費	0	180,000	▲180,000	公開文化祭の支援(18クラス×¥10,000)
特別会計事業	1,000,000	0	1,000,000	上限年額100万円の支援
各種事業積立	400,000	400,000	0	
50周年事業積立	400,000	400,000	0	
特別会計積立	0	0	0	
予 備 費	150,000	0	150,000	
合 計	5,335,100	3,673,031	1,662,069	

* 項目科目間の流用を認める。

福島東高校の卒業生から学び

憧れの存在として

福島市立福島第一中学校長
板橋 竜男(第一期)



なんで教員を目指したんだろう…振り返ってみると、高校時代だったと思う。

生徒に教える先生の姿って、単純に「カッコいい」と思った。失礼な話だが、ビジュアル的に「カッコいい」ではなく、なんでも知っていて、それを話す姿が個性的だった。

社会科の〇教頭先生、〇〇先生の話：五十分があつという間だった。数学の〇〇先生：私は数Ⅲは教えられません、とは言ったものの、数Ⅰが理解できたのは、その先生のおかげであつた。現国の〇〇先生、文章を書いて、間を抜くと…本当に詩になった。英文法の〇〇先生、間違えた後に、「台風の余波ですかね」…。その他、たくさん授業が思い浮かぶが、どれも四十年以上も前の出来事だったことに驚きを感じてしまう。卒業後、迷わず、福島大学の

教育学部に進学した。卒業後は、四つの中学校で十九年間教員をして、三年間の中学校教頭、二年間の中学校校長、十年間の行政(義務教育課や教育事務所、教頭の後三年、校長の後七年)を経て、昨年度、教員時代に六年間を過ごした福島第一中学校に赴任した。

特に教員時代、福島大学附属中学校での七年間は、隣の学校の校舎を眺めながら生活をしてきた。日々の教育活動だけでなく、学校公開や教育実習生への指導など、かなり忙しく、心が折れそうになることも多かったが、「今の自分に専門性はあるのか、教える情熱はあるのか」とあの頃の先生方を思い出しながら、頑張っていたことを思い出す。

行政に入って、管理的な仕事に就き、先生方の様々な志願書などを見ると、東高出身者の割合が高かった。県南教育事務所や県中教育事務所に勤務していた時は、東高出身者の新採用教員が多く、四月の辞令交付式では、心の中で「がんばれ」と思っ

じた。

今、教員は働き方や様々なクレーン対応などにより、ブラックな印象で、就職先として敬遠されている。本当は魅力的で、カッコいい職業なんだけど、それが伝わらないのが本当に悔しい。そんな中、今回、自分の経験を母校で話す機会ができたことは、大変うれしかったが、反面、伝わったのだろうかという不安もある。

あの時の先生方だったなら、今、なんていうのだろうか。

年月も過ぎ、私たちの年代も還暦に近くなってきた。でも、まだまだ彼らの背中では遠いなと、この世界に入って感じるこの頃である。

懐かしさの力

福島東高 教諭

阿部 善重(第十四期)



今年度より、国語科の教員として母校に勤務できることを光栄に思っています。久しぶりに校歌を聞き、胸を熱くすると同時に、責任の重さに身を引き締めました。この度は、高校時代

に目立つことのなかった私のようなものが寄稿すること、非常に恐縮しております。

思い返せば、一・五倍の競争率をぐり抜けて入学し、福島国体でも活躍するような才能豊かな方々と共に学ぶことができた誇らしさがよみがえります。

また、我が十四期は、共学の経験をした最初の学年であり、本校の重要な転換期だったと推察されます。しかしながら、個人的にはバスケットボールと勉強に明け暮れた三年間で、高校生の記憶があまりないのが正直なところです。

私事ですが、会津地区から教員生活をスタートさせ、昨年まで県南地区の高校に勤務していました。県南地区も大変素晴らしい所ではありますが、なにか自分の居場所ではない感じで、根無し草として生きているようでした。ところが、本校に着任して校舎を眺めた時、そして多くの時間を過ごした第一体育館に立った時、一転して「帰ってきた、懐かしい」という気持ち

が湧いてきました。

藤森照信氏は『フジモリ式建築入門』で、建築固有の力として「懐かしさの力」について論じています。昔の小学校を見て懐かしいと感じるのは、小学校時代の自分と今の自分がつながっていることを無意識のうちに確認し、その確認の喜びが、懐かしいという感情となつてし

みじみと湧いてくるからである。人は、自分の時間的アイデンティティを、目に映るものが変わらないことで確認している。そうした時間的アイデンティティの確認に必要なものは、変わらない光景であり、山や川、人の作ったものでは、街並みや建築である、と。

私が「懐かしさ」を感じたのは、変わらない校舎、校庭、桜並木、町並みに、高校生の自分と今の自分が連続していることを感じたからでしょう。今の自分があるのは東高のおかげです。卒業後の精神的に辛かった時には、藤田駅から始発で通い、精一杯頑張った日々を思い出し、踏み張ることができました。また、フルマラソンやトライアスロンに挑戦し、生きる糧とすることができたのは、自分の核に文武両道があつたからです。本当に感謝しています。

校舎だけでなく開校以来、連綿と続く「同窓会」もまた、変わらずに自分を保証してくれる存在です。同窓会の皆様、並びに東高関係者が、これまで自分を支援してくださったことに感謝しながら、これからは東高同窓生として伝統と矜持を受け継ぎ、支援する側として尽力していく所存です。

「東高応援基金」

協賛者名

(敬称略)

※()は卒業期、()は旧姓

○「東高応援基金について」

文武両道に全力で取り組む後輩達に金銭的な支援を行うことを目的に平成十七年度から始まったこの事業に多くの同窓生にご賛同いただきありがとうございます。今後の在校生支援を継続して行く財源の確保のため、この「東高応援基金」へさらに多くの同窓生の方にご協力をいただきますようお願いいたします。同封した振込み用紙または同窓会のサイトにてお願いいたします。その際、おわかりになっていけば、卒業年度もしくは何期かをご記入下さい。

なお、ここ数年にわたって福島市役所の職場同窓会である福島市役所東桜会から、部活動支援のためにという趣旨で多額のご寄付があります。これは部活動支援のための後援会会計に繰り入れ活用させていただいております。このような職場同窓会の活動に心より感謝申し上げます。

【お詫び】

東高応援基金につきまして、昨年度発行の同窓会報におきまして、東高校同窓会サイトを通じてお振込みいただきました皆様のお名前を掲載せずに発行してしまいました。

この場を借りて、御心配をおかけしお詫び申し上げますとともに、今後再発防止に心がけて

まいります。

昨年度お振込みいただき、掲載が漏れた皆様のお名前を改めて掲載させていただきます。

鈴木弘明(1)鈴木友彦(3)氏家祥市(4)古閑邦彦(4)松本重明(4)渡辺政彦(4)手塚健一(5)三津間崇(5)宮本隆(5)遠藤直人(6)後藤政則(9)齋藤弘樹(9)安齋誠(10)上原拓司(10)齋藤俊臣(10)佐藤将史(10)林谷市(10)安齋康之(11)河内正和(11)澁木拓城(11)菅野聡(12)熊田教平(13)若林宏樹(13)大葉真希(17)遠藤美佳(19)伊達孝浩(21)山本拓也(21)塩谷卓也(22)渡辺香織(22)佐久間健太(26)渡邊奏(26)松浦由樹(27)大橋有美(28)三浦崇悦(28)佐藤匠(29)紺野哲史(32)佐藤大輔(32)菅野友貴(32)渡辺聡(32)菅野裕日子(34)齋藤朋華(36)柏倉光生(38)齋藤和也(旧職員)

卒業生

尾形伸裕(1)尾形幸男(1)三浦信彦(1)西山尚利(1)秋山達也(1)橋内重康(1)阿部宗弘(1)加藤和宏(1)佐藤武士(1)佐戸川政実(1)高橋正也(1)板橋竜男(1)佐藤栄治(1)森隆行(1)菊池浩二(1)岡田(安齋)正孝(1)田村健(1)緑上淳一(1)阿部浩行(2)齋藤正機(2)穴戸佐寿(2)目黒幹浩(2)渡辺伸一(2)遠藤勝利(2)穴戸英樹(2)津田克也(2)渡辺武浩(2)堀切幸朗(2)小野浩樹(2)永井貴博(2)佐久間真二(3)齋藤孝一(3)佐藤智彦(3)蒲倉達也(3)紺野信幸(3)佐藤和生(3)太田幸人(3)岡田正明(3)小林雄(3)高根功幸(3)外山淳一(3)森進一(3)安藤武仁(3)寺島健吾(3)西條正美(3)堀江勇一(3)大井奨(3)菅野功(3)紺野勝弘(3)原田政彦(3)泉田太郎(3)植田光樹(3)齋藤文孝(3)坂巻幸司(3)下島仁(3)須田秀一(3)紺野

信幸(3)大井学(4)河野糧祐(4)星達雄(4)丹治仁(4)峯智和(4)宗形和人(4)上原子祐司(4)佐々木正則(4)梅津清(4)古閑邦彦(4)作山稔樹(5)小野友史(5)三宅一秀(5)尾形隆(5)上川高志(5)永澤憲一(5)小竹智行(5)穴戸義治(5)富樫隆男(5)遠藤治(5)佐藤忠之(5)伊藤隆(5)渡辺裕哉(5)菅野弘忠(5)橋本一弘(5)日下部正和(6)高橋城士(6)高田豊一(6)熊坂英樹(6)佐藤利久(6)丹治裕一(6)山川毅(6)橋本成満(6)佐々木光洋(6)鈴木一義(6)小熊弘人(6)佐藤仁一(7)久保聡(7)佐藤史(7)木下哲一(7)中村(半澤)孝雄(7)山岸竜大(7)長谷川剛志(7)大波哲也(7)黒江昌宏(7)松本琢也(7)安齋晃(8)阿部信孝(8)加藤智裕(8)植木博隆(8)菅野伸和(8)鈴木淳(8)江川(菅野)洋之(8)熊坂隆(8)斎藤晃一(8)丹治章近(9)後藤政則(9)河野拓和(9)齋藤嘉紀(9)保科輝之(9)菅野巧(9)渡辺剛(9)大槻進也(9)梅宮英美(9)栗村真之(9)服部博(9)渡邊和宏(9)渡辺勝美(9)川瀬哲雄(9)吉田耕嗣(10)佐々木靖広(10)篠崎秀(10)遠藤司(10)佐藤誠(10)石井哲司(10)加藤芳史(10)渡辺剛智(10)穴戸利彦(10)熊坂隆行(10)高橋誠(10)野口幸哉(10)上原拓司(10)菅野悟史(11)宮崎康弘(11)八島貴宏(11)高橋典久(11)芳賀利規(11)齋藤丞(11)須藤祐樹(11)清野貴史(11)高坂知秀(11)武藤達也(11)佐藤喜也(11)菊田裕(12)吉田俊一(12)猿田秀和(12)久富伯夫(12)菅野真幸(12)下条祐一(12)齋藤讓(12)幕田誠一(12)阿部友弘(12)鈴木健太郎(12)渡辺博(12)鴨原健二(13)鈴木順一(13)本多真史(13)根本和彦(13)渡邊勝(13)石川亨(13)齋藤良治(13)齋藤博靖(14)廣野功二郎(14)伊藤規義(14)丹治剛俊(14)木幡健一(14)中山(佐藤)宏樹(14)菅野元樹(15)渡辺秀一(15)佐藤光太郎(15)三坂和彦(15)渡邊繁(15)齋藤訓朗(15)柘植健至(15)遊

佐佳一(15)守山直樹(15)菅野達樹(15)飯島(木村)早苗(16)橋本真(16)古閑康宏(16)阿部信一(17)鴨原智宏(17)池田和貴(17)三浦佑一郎(17)土屋映梨(17)木内(佐藤)智紀(18)伊東健一(18)今野陽介(18)野口(大槻)雪乃(18)半澤翔(19)片平美代子(19)浅川吉和(19)齋藤勝敏(20)羽田真幸(20)櫻田貴志(20)武藤勝(20)武藤正昭(20)大場(佐藤)香織(20)石幡乾(20)二瓶真人(20)阿部真治(20)渡邊雅敏(20)齋藤広彰(21)古閑亮介(21)榎本(河西)利志子(21)齋藤元(21)大月哉(21)佐藤宏樹(22)阿部健治(22)千葉悠太郎(22)伊達孝典(23)坂田亮人(23)鳥居広基(23)和田(古樫)かおる(23)菅野数宙(24)菅野章平(24)菅野貴文(24)阿部兼太郎(24)鹿江真理子(25)加藤千裕(25)住吉瞬(25)坪谷洋平(25)宮本圭太(25)古山貴大(26)菅藤脩平(26)千代間祥之(26)舟山貴之(26)古山彩佳(27)佐藤李保(27)佐藤芳哉(27)國分秀(27)栗城康佑(28)平栗由香(28)鈴木大奨(28)伊東道(28)澤井友平(28)加藤真弓(29)菅藤雄介(29)宗像麻衣(29)富田凌佑(30)大貫秀人(31)佐藤雅(31)豊田大智(31)小池優美子(31)永野拓海(31)杉内瑛(31)吉田友和(31)澤井直久(31)大槻倫成(31)金子耕也(32)山岸勇士(32)油井真理絵(32)赤間大樹(33)鈴木蓮(33)加藤佳耶子(34)上原子祐麻(34)加藤沙和子(35)佐藤世理(35)遠藤裕(35)長谷川遼(35)小河原大樹(36)遠藤典(36)齋藤海波(36)川上太郎(37)中平雅也(37)古田真季(37)穴戸拓(37)原井汰朗(37)安部響紀(37)鈴木優輔(37)濱尾春樹(37)佐藤步(38)小野凌雅(38)七宮諒(38)加藤南穂(38)小河原弘大(38)中村理子(39)仙波諒(39)根本菜摘(39)石田琢磨(39)渡辺裕大(39)加瀬棕唯(39)佐藤ひなた(39)丹治陸(39)穴戸萌花(39)齋藤弘斗(39)菅野雄大(39)鈴木綾(39)守岡悠希(39)小野琴葉(40)安齋美南(40)小澤大地(40)山下明奈(40)大内陽

東高校応援基金について

同窓会では、東高校応援基金によりいただいた資金をもとに在校生支援事業を行っております。同封の振込用紙に加え、同窓会サイトよりWeb上で決済いただけるようにもしております。QRコード先のリンクから応援基金のページへ移動できますので、ご活用ください。



喜(40)鈴木善悟(40)大内結愛(40)尾形理莉(40)遠藤況己(40)
旧職員 鈴木浩一、佐々木純子、星一彰、千葉金之助、佐藤伸郎、本多光弥、朽木隆、安齋充、八巻淑子、五十嵐幸、村上啓正、深澤陽一、東城正幸、西勝文夫、小野孝雄、皆川郁夫、長岐博、渡辺孝、星和久、迎裕仁、諏佐一夫、黒澤元吉、矢部邦子、佐藤恵一、鈴木知洋、中村康伸、平岩典男、田村秀夫、今野充宏、草野智教、加賀美静男、重川和儀、齋藤和也
一般個人 加藤義博
福島市役所東桜会

◎ 令和五年四月一日から現在までに振り込みがあった方を掲載しました。保護者名で振り込まれた場合は生徒名で報告させていただきます。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。氏名等の誤りがありましたら、事務局までご一報下さい。

進路

進路指導主事
遠藤 順一

令和四年度の国公立大学合格者は八十四名でした。主な大学への合格者数は、福島大学二十八名、福島県立医科大学十二名、山形大学九名、新潟大学四名、長野大学四名でした。また、国公立大学中後期試験では、最後まで学習を継続した成果が十名合格という結果につながりました。私立大学に関しては、二百七十一名（延べ人数）が合格しました。昨年同様、国公立大学・私立大学の推薦入試（学校推薦型・総合型選抜）に多くの生徒が挑戦しました。

三年前に「大学入試センター試験」から「大学入学共通テスト」に移行しました。また、二〇一七年三月に告示された新学習指導要領は、現二年生（二〇二二年度の高校入学生）から導入されています。新たに、プログラミングや情報セキュリティの基礎などを学ぶ「情報I」が必修科目となっており、文系・理系を問わず、理数の学習が必須となりました。新学習指導要領の特徴の一つは、育成すべき「資質・能力の三つの柱」とし

て、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」が示されました。「何を理解しているか、何ができるか」だけでなく、「理解していること・できることをどう使うか」、「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」なども、これからの社会を生き抜く上で必要な資質として示しています。もう一つの特徴は、こうした資質・能力を育むための手法として、「主体的・対話的で深い学び」が示されたことです。一方通行の画一的な授業から個別最適化された学び、探究的な学びへと変革していく「学びの変革」を進めることが示されています。そして、正解のない問いを自分で考え、周りと協働して解決を図る力が必要であるとされています。

現在、教育が大きな改革時期にある中、大学はこれまでに学部の種類を増やし続け、今や五〇〇種類以上となりました。私大が大学生の頃はおよそ一〇〇種類でした。つまり、この約三十年で大学の学部の種類は五倍になりました。学科になると、さらに細分化され、三〇〇〇種類を超えています。大学設置基準が変更となってからは一挙に学部・学科の種類数が増えまし

(表) 大学別合格者数 (令和4・3・2年度入試)

	大 学 名	令和4年度生	令和3年度生	令和2年度生
国 公 立 大 学	北見工業大	1	1	0
	北海道教育大(釧路)	0	0	1
	北海道教育大(旭川)	0	0	1
	北海道教育大(函館)	2	0	3
	室蘭工業大	0	2	3
	弘前大	1	0	0
	岩手大	0	0	1
	宮城教育大	3	1	1
	秋田大	2	1	2
	山形大	9	16	6
	福島大	28	30	36
	茨城大	3	1	2
	筑波大	1	0	0
	宇都宮大	2	0	0
	埼玉大	1	1	2
	東京学芸大	0	0	1
	新潟大	4	6	5
	富山大	0	1	0
	琉球大	0	0	1
	千歳科学技術大	0	0	1
	釧路公立大	1	1	0
	青森公立大	1	1	0
	青森県立保健大	0	0	1
	岩手県立大	1	1	0
	宮城大	1	0	2
	秋田県立大	1	0	2
	会津大	1	2	4
	福島県立医大	12	8	8
	前橋工科大	1	0	0
	新潟県立大	0	0	3
	高崎経済大	1	0	0
	長岡造形大	1	1	0
	都留文科大	1	0	0
	長野大	4	1	2
	静岡県立大	0	0	2
	鹿屋体育大	1	0	0
	その他	0	0	0
	計	84	75	90

	大 学 名	令和4年度生	令和3年度生	令和2年度生
私 立 大 学	仙台大	2	5	6
	東北学院大	46	82	72
	東北福祉大	33	45	41
	東北医薬科大	1	8	1
	宮城学院女子大	7	21	8
	東北芸術工科大	2	6	1
	国際医療福祉大	8	11	5
	白鴎大	12	29	15
	獨協大	2	1	2
	文教大	1	1	3
	女子栄養大	0	2	0
	神田外語大	3	2	3
	淑徳大	1	5	0
	青山学院大	1	1	2
	亜細亜大	2	0	1
	北里大	1	0	4
	国土館大	2	0	5
	駒澤大	1	0	1
	芝浦工業大	0	0	1
	専修大	0	3	3
	大東文化大	1	12	3
	玉川大	1	1	1
	中央大	1	2	1
	帝京大	3	2	2
	東海大	14	15	4
	東京工科大	0	0	3
	東京農業大	2	12	3
	東洋大	8	1	1
	日本大	16	17	25
	早稲田大	1	2	0
	法政大	1	3	1
	明治大	2	1	3
	明治学院大	0	0	1
	神奈川大	4	6	3
	新潟医療福祉大	8	2	12
	同志社大	2	2	2
	その他	82	143	137
	計	271	443	376

※令和4年度卒業より6クラス

た。それまでは論外だったカタカナの学部名も認められるようになりました。今や世の中の重要なキーワードのほとんどすべてが、五〇〇以上ある学部で学べるということも過言ではありません。また、厚生労働省の調査によると、二〇一九年に大学を卒業して就職した新卒社員のうち、三年以内に離職した人の割合は三二％です。このうち、一年以内に辞めた人が最も多く、一二％にのぼっています。大学側はこのような状況を踏まえて、学生達が自分のキャリアについて十分に考えた上で就職活動へ臨めるようにと、正規のインターンシップ科目を用意したり、様々なキャリア教育を展開したりしています。

昭和から平成、令和へと時代は移り、教育に求められるものも大きく変化しています。前述のような教育・入試制度の変化、進路選択の広がりや働くことに対する価値観の多様化に伴うさまざまな課題が山積する中、東高も変化を求められています。東高生には、これからの社会を生き抜いていけるタフな人材を目指してほしいと思います。東高生一人ひとりの力をより伸ばすために、これからの東高はどうあるべきかを考え、さまざま

なことに躊躇なくチャレンジしていきたいと思っています。

41期総括

41期学年主任 佐藤 茂雄

四十一期生が卒業し、一年が経とうとしています。卒業まで御理解御協力いただいた保護者の皆様、多くの面でサポートしていただいた同窓会の皆様、勉強や部活動で御尽力いただいた教職員の皆様、本当に有難うございました。四十一期学年を代表し御礼申し上げます。

四十一期生は、六クラスになった初めての学年であり、前の学年同様とはいかない部分が多くありました。また、コロナ禍の中、様々な行事が中止や変更を余儀なくされ、先が見えない中を手探りで歩んだ三年間とも言えます。前例のない中で、今、最も生徒のためになることは何かを模索する日々でした。

入学式を終えて間もなく、休校、そして三週間に及ぶ分散登校の日々から四十一期の高校生活は始まりました。クラスメイトの顔も覚えられない中、応援歌練習や自然文化探究など、一学期に予定されていた行事はこ

とごとく中止となり、部活動も制限の下で行われるなど、生徒たちが「福島東高らしさ」を感じる機会があまりないままのスタートでした。高校生活の下地を作るべきこの時期に生徒も教員も混乱の中にあつたことで、四十一期生の生活が軌道に乗るまで時間がかかったように思います。この状況下で、私たち学年団も分からないことが多く大変苦労しましたし、多方面で御迷惑をお掛けすることもありました。生徒から仲が良いと言われるほど強い団結力があつたこともあり、困難を乗り越えることができたと思います。

この時期だからこそできたこともありました。Google classroomを使ってオンライン授業、お互いの顔が見えるLHRを行い、ICTを活用する良い機会になりました。その後の学校生活でも、生徒たちの健康観察や連絡事項の伝達などに、この時の経験が活かされたと言えます。コロナ禍でオープンキャンパスへの参加が難しくなる中、オンラインによる大学の模擬講義を受講したり、大学の先生方の話を聞いたり、また、総合的な学習の時間においても、NPO法人など様々な方の話を聞いて質問した

り、ICTを活用したりすることで、可能性が様々な広がったと思います。

オンラインでの学習が増えつつある中、実体験をすることにも力を入れていきました。一年次には、地域社会見学として、原子力災害伝承館を訪問し、語り部の講演、希望に応じてそれぞれのコースに分かれ、双葉町、浪江町請戸港等の見学を行いました。実際に津波の被害にあつた現場を訪れ、震災の傷跡、そして復興に向かい尽力される人々の姿を直に感じることもできました。

二年次には、高校生活最大の行事である、修学旅行を実施することができました。マスクの着用、手指の消毒、部屋やバスの換気を徹底し、食事も全員ではとらないなど、制限の中ではありましたが、修学旅行を実施し、大きな事故につながることなく帰って来ることができたのは、当時としては奇跡的なことだったと思っています。内容や感染対策など検討を重ね、保護者説明会もオンラインで配信して、より多くの方に安心していただけるよう努力しました。最終的に、目的地を九州に変更しましたが、熊本城や吉野ヶ里遺跡などの歴史的な建造物にふ

れ、長崎原爆資料館では原爆という惨禍について肌で感じ、そして、悲惨な歴史を乗り越えた長崎の街を実際に歩いたことは、生徒たちにとって大きな経験となったはずです。旅行先での、生徒たちのはじけるような笑顔や、原爆資料館の展示に真剣に見入る姿は強く印象に残っています。中止もやむなしと思っていた中でしたので、生徒同様、私たち学年団にとっても忘れ難い思い出となりました。

三年次の総合的な探究の時間では、各進路希望に分かれての学習の他に、学年のテーマであつた「福島復興」のまとめとして、講義や体験活動を通して、今まで学習してきた知識をさらに深化させることができました。実際に経験させることを大切にしたからこそ、本物の知識として、しっかりと吸収することができたのだと思います。

進路に関しては、まず総合型選抜、学校推薦型選抜では昨年度同様チャレンジする生徒が多く見られました。志願理由書の作成や、小論文、面接指導など、学校全体でサポートしていただき、二十三名の合格者を出すことができました。学びたいことを明確に定め、学校の勉強の他に、何を学び経験したかが合否

を分けたように感じます。

大学入学共通テストでは、天候にも恵まれ、前年度ほどの極端な難化はなかったこともあって、落ち着いて受験できた生徒が多かったように感じます。国立・公立大学を志望する生徒が多いこともあり、後期試験、そして二次募集に挑むなど、三月末まで粘り強く努力する姿が見られました。教科指導はもちろん、小論文、面接指導と、学年外の先生方にも最後まで本当にお世話になりました。最後の最後まで諦めず取り組んだ成果が、国公立大学合格者合計八十四名という結果につながったと思います。

新型コロナウイルスによる様々な制限の中、思うようにいかないことも多々ありましたが、与えられた環境で精一杯楽しみ、努力し、成長していく生徒たちの姿に励まされた三年間でした。生徒にとっても私たちにとっても、激動の三年間だったと言つて過言ではありませんが、「生きる力」を十分発揮できた三年間でもありました。四十一期の生徒たちが、福島東高での日々を糧に、新しい環境でも輝いてくれると確信しています。これまで支えてくださった皆様にあらためて感謝申し上げます、総括といたします。

東北・全国大会出場報告

全国総合文祭(かごしま大会) 出場奨励賞受賞報告 第四十七回

全国学生書写書道展 文部科学大臣賞受賞報告 書道部顧問 郡司 仁美

令和五年八月一日(三日)、鹿児島県サンアリーナせんだいで開催された全国高等学校総合文化祭の書道部門に三年生の鳴原莉子が福島県代表として出場してまいりました。鳴原は三年間の部活動で全国書道展や県内のコンクールに出品し、数多くの上位入賞を果たしてきました。特に、中国六朝時代の楷書の古典『孫秋生造像記』を三年間継続して学び、今回の全国総文に

も、横二尺(六〇cm)×縦八尺(二四〇cm)の紙面にダイナミックな線質で堂々と表現しました。展覧会場はサンアリーナせんだいでした。会場には、楷書・行書・草書・隸書・篆書の漢字作品、また仮名作品等、約三〇〇点の作品が陳列されており、その表現力の豊かさや、質の高さ、作品に込めた思いが見て取れ、感銘を受けました。交流会と講評会は場所を移し、SSプラザせんだいで行われました。交流会では鹿児島県の名産品である屋久杉のコースターやしおりに揮毫をし、参加者同士で交換し合うなど、各県代表の生徒たちと親睦を深め、情報交換をすることができました。最後の講

評会では、講師の先生から「鋭い起筆と収筆で古典の力強さと剛筆さを表現した作品である」とのお褒めの言葉をいただきました。奨励賞を受賞することができました。また、第四十七回全国学生書写書道展に出品した半紙作品では最高賞の文部科学大臣賞をいただきました。

鳴原は「作品制作において、書くだけではなく、その古典の筆者や歴史的背景について学ぶことが大切。用具用材は多様であり書作品の幅を広げることを知った。今後大学で教員免許を取得し卒業後は高校の書道教員になりたい。書の魅力を伝えるだけでなく、書が社会生活と繋がっているような活動していきたい。」と、話していました。現在書道部は五名で活動しています。今年度は地域観光資源

「宿場」を活用した地域活性化プロジェクトに参加する機会にも恵まれ「御宿場印」の揮毫も行いました。

今後も書の本質や魅力を考えながら、個々の書作品の質を高めていける活動を目標に、毎日の練習に取り組んでいきたいと思っています。

最後になりましたが、日々の活動に対するご理解やご協力に感謝いたします。総文祭への参加にあたりましては、同窓会から励ましのお言葉と多大な激励金をいただきました。心より感謝申し上げますとともに、今後ともご支援くださいますようお願いいたします。

全国高等学校総合文化祭 (かごしま総文2023) 参加報告

美術部顧問 安齋 雅高

全国高等学校総合文化祭は、毎年夏の時期に行われている高校の文化部による全国大会です。演劇や写真、新聞、文芸など約二十部門あり、開催は各都道府県の持ち回りで、文化庁と全国高等学校文化連盟、地元自治体などが主催しています。文化部のインターハイとも呼ばれ、四十七回目の今年度は七月二十九日から八月二日の日程で熊本県内の各会場で開催されま



▶全国高等学校総合文化祭書道部門(鹿児島大会)
奨励賞「臨 孫秋生造像記」(二尺×八尺)

三年 鳴原 莉子



▶第四十七回全国学生書写書道展
文部科学大臣賞「臨 孫秋生造像記」(半紙)

三年 鳴原 莉子

した。

本校美術部からは美術・工芸部門に二年生の阿部夏芽と佐藤なる海が福島県代表として参加しました。阿部夏芽の「誓いの夏」、佐藤なる海の「覚醒」共に五十号の油彩画で、昨年度の福島県高等学校美術展に出品された二八四作品の中から福島県代表作品の七作品に選ばれました。本校美術部としては四年連続の全国高等学校総合文化祭参加になります。

初日は鹿児島市立美術館、鹿児島県歴史・美術センター黎明館で、全国から選ばれた絵画、彫刻、デザイン、版画、工芸、映像など、

四〇一点の作品展示を鑑賞しました。どの作品からも若さ溢れ力がみなぎるような迫力が伝わってきて、今まで高校生の描いたレベルの高い作品を見る機会がなかった生徒たちは、同年代の美術部員たちの創造性や感性に驚きながらも真剣な眼差しで鑑賞し、盛んにスマートフォンでシャッターを切っていました。

翌日県総合体育センター体育館で行われた作品講評では、展

◀「誓いの夏」

二年 阿部 夏芽



▶「覚醒」

二年 佐藤なる海

示作品の中から数点の作品に関して講評があり、続いて行われた講演会ではファイナルファンタジーシリーズなどを手掛けたアートディレクターの上国料勇氏より、「絵を描いて生きるということ」という演題で講演をいただきました。また、午後に行われた交流会では、グループに分かれて鹿児島県の郷土玩具「オッのコンボ」の制作を行いました。オッのコンボとは鹿児島弁で起き上り小坊師のことで

す。各自がオリジナル作品を作り、完成した作品を並べ鑑賞交流をしました。それぞれユニークで個性的な作品が出来上がり、盛り上がった交流会でした。三日目は昨日のグループごとに展示会場に集合し、作品鑑賞会を行いました。それぞれ自分の作品の前で、作品解説を行い、意見交換や感想カード交換などを行いました。

生徒たちは全国総文祭に参加し、様々な企画を通してたくさん刺激や今後の制作への誓いを心新たにしようで、この気持ちを今後の創作活動に生かしてほしいと思います。

総文祭への参加にあたり、同窓会から励ましのお言葉と多大な激励金をいただきました。心から感謝申し上げますとともに、今後もご支援を賜りますようお願いいたします。

山岳部全国大会出場報告

山岳部顧問 馬場 淳平

六月上旬に行われた県大会の最終日。今年度のインターハイ出場校として福島東高校の名前が読み上げられた時、生徒たちが流していた涙を私は忘れることはないと思います。

今回、インターハイ出場を果たした三年生五人は、私が本校に着任した時の新入生です。一

年生の時は遠慮がちでとなしい印象でしたが、三年間で本当にたくましく成長してくれたと感じています。

彼らにとっての大きな転機は、二年生の時の県大会ではないでしょうか。優秀パーティーに選出されたものの、インターハイ出場はならず、悔しさを滲ませていた姿が印象に残っています。その後の彼らの部活動に取り組む姿勢は明らかに変わりました。悔しさを知った人間は強いのです。そんな彼らの姿を見て、私自身も東高在任中に必ずインターハイ出場を達成すると改めて決意しました。

県大会を勝ち抜くためには、計画書と天気図作成の完成度が鍵となります。部長の渡邊を中心に、宮島と唯一の二年生の柳田はICTを駆使し、緻密な計画書の作成に励みました。根本と野田は、大会山域の地形図を入念に読み込み、正確な概念図の作成に尽力しました。また、パーティーで唯一の天気図担当の小林は、毎日欠かさずラジオの気象通報を聞き、大会前日の直前まで天気図作成の練習に粘り強く取り組みました。彼らは次第に自分たちだけ

で読図ミーティングなども行うようになり、いつの間にか自ら考え行動できるパーティーへと成長していました。「インターハイの出場権を絶対に勝ち取る」という強い思いを彼らからは何度も感じました。

彼らの努力が実を結び、ようやく手にすることができたインターハイの出場権でしたが、インターハイへ向けた準備は想像を超える過酷さでした。インターハイの山岳競技は、登山の基礎的な技術・態度を着実に実践できることを主眼として、(1)体力・歩行技術、(2)装備・設営・炊事、(3)課題テスト、(4)読図技術、(5)マナー・自然保護の五つの観点に基づき、百点満点で審査が行われます。大会前には、本部より大会山域についてまとめた百頁ほどあるテキスト(「予報」といいます)が配布されますが、事前準備の一つとして、





まずはこの予報を丹念に読み込み、暗記しなければなりません。その他にも、メインザックトレーニングや設営の練習、地形図の読み込み、登山ルートの把握、課題テストの対策、装備の準備、本番前のコース調査：など行うべきことは山ほどありました。しかし生徒たちは挫けることなく、インターハイ当日へ向け、着々と準備を進めていきました。

迎えた北海道インターハイの開会式。福島県代表として選手たちと並んで席についていた時、「生徒達が本当に頑張っていて、インターハイまで連れてきてくれたのだ」という熱い思いが込み上げてきました。彼らのおかげで、東高校山岳部は新たなステージに到達することができた

のです。インターハイの結果は目標には残念ながら届きませんでした。生徒たちはベストを尽くしてくれました。ここまで努力してきた生徒達を誇りに思います。

結びとなりますが、今回のインターハイ出場に際しまして、同窓会の皆様から多大なるご支援をいただきましたこと、厚く御礼申し上げます。また、中学校長先生をはじめ、これまで支えていただいた東高関係者の皆様にも感謝申し上げます。全国大会出場報告とさせていただきます。

「勝者」を目指して
テニス部顧問 梅宮 康弘

今年度は、インターハイをかけた県大会決勝で相馬高校に敗れ、準優勝で東北高校テニス大会出場（県一位のみが全国大会出場）。全国高等学校選抜テニス選手権をかけた東北大会では第五位（四位まで全国大会内定という結果でした）。

東北高校テニス大会では、団体戦一回戦で昨秋後塵を拝した盛岡四高と対戦。二一（S一、D一〇）で、形式は異なるもののリベンジを果たしました。二回戦では、優勝候補の仙台育英高校に〇一二（S〇一、D〇一）で敗退しました。個人戦では、高校から硬

式テニスを始めた齋藤蓮斗が、県大会を勝ち抜き出場しました。

選抜大会は、二複三単重複無計七名が必要となる団体戦です。一人二人強い選手がいても層が薄ければ上位進出は叶わない形式です。今年のチームは、昨年の主力五人（前述の四名と高橋颯）がそのまま残り、一年生に経験者三名（太田泉・加藤柊羽・黒津星斗）を加え、実力者が一人補欠に回るという創部以来初めてとなる層の厚さとなりました。県大会でも一ポイントしか落とさない盤石の戦いで優勝し、東北大会に臨めました。今年の東北選抜の男子は、本校を含め五チームが上位を争い、その中から一チームだけ全国選抜を逃すと予想されていました。

抽選会の結果、一回戦は優勝候補の仙台育英高校に決まりました。選手たちも四チームのどこかを倒さないと全国に行けないことは重々承知ですので、強い気持ちで試合に臨みました。

S1（佐藤）はストロークでは互角でしたが、相手の強力なサービスを攻略できず惜しくも敗退。D1（菊地・太田）は、二〇リードと相手を緊張させたまま優位にゲームを進めましたが、一ゲーム返された所から相手ペアが普段の力を発揮し始め惜しい敗退。S2（市川）も

序盤シーソーゲームのシビアな戦いをしましたが、やはり少しだけボールを収めきれず惜しい敗退。D2（加藤・高橋）は緊張から少し解放され勝利。S3（齋藤）は、消化試合のような形で惜しい敗戦。結果一四（S〇一三、D一）でした。敗者復活一回戦は、昨年同様盛岡第四高校。相手は今春までの主力はおらず、五〇〇で勝利。二日目に駒を進めました。

二日目の敗者復活二回戦は、福島県大会でも優勝を争ったいわき湯本高校。相手の気迫あふれるプレイに少し押される所もありましたが、三（S一、D二一〇）で勝利。第一シード岩手高校と、全国大会に向けた大一番に臨むことになりました。S1・S2・D1が同時に始まりました。S1（佐藤）は、東北でも屈指の強敵に非常に競った試合をしてきました。しかし、ゲームポイントが取り切れなかった。ほぼ全てのゲームでジュースが続く白熱した試合で、数ポイント決め切れていれば、もしくはしのぎ切れていればという、スコア以上に惜しい敗戦。S2（市川）は、尊敬するコーチの応援もあり、気迫あふれるプレイを展開。なんと六〇〇での勝利。重圧から解放された市川の目には涙が光っていました。D1は、サウスポ

でサービス力のある一年黒津とキャプテン菊地で臨みました。本校ペアの爆発力に期待していたのですが、良いプレイが連続せず、徐々に相手のポイントが上回るようになり、惜しい敗戦となりました。この時点までは、今年の本校の層の厚さが、その後の対戦で優位になると思っておりませんでした。

しかしD2（加藤・高橋）の対戦では、相手校が慎重にはなく、パワーで押し切る戦術で挑んできました。ミスを恐れず強打する相手に少し受身になりすぎ、更に試合を続ける中で相手ペアが「乗って」しまい強打がかなりの確率で入りだし、徐々に引き離されていきました。二年高橋が気迫のサービスキープをし、反撃ののろしを上





げたかに見えましたが、次のゲームでは、逆に相手のファーストサービスがごとごとく決まり、迎えた相手のマッチゲームでも強打を崩し切れず残念な敗戦となりました。同時に進んでいたS3（齋藤）はメンタルモンスターらしく相手の強打を粘り強く返し続け、優位に試合を進めていただけに本当に惜しい敗退となりました。その後行われた青森高校との5位決定戦では、傷心の中でも三ー一（S二ー一、D一ー〇）でしたので、下馬評通り全国枠四を賭けた五チームの戦いだったのです。

トキは来た!!

（東北大会出場報告）

柔道部顧問 佐々木勝宏

【はじめに】

近年、佐渡の朱鷺の如く絶滅の危機に瀕しながらも、しぶとく生き残り少数精鋭での戦いを繰り返してきた東高柔道部。昨年度のセカンドシーズンでは、「四天王」として四名で創部初の冬の東北大会団体戦出場を果たしました。今年度は新たに二名の加入を得て、「六地藏」と化しシーズンを迎えました。

昨年度のインターハイ県大会、団体戦で初のベスト4進出も、手中にしかけた決勝進出を逃し、直後の東北大会出場決定戦でも敗れ、悔し涙にくれました。あれから一年、臥薪嘗胆の進む精進を重ねた甲斐あって、二年連続のベスト4進出を果たし、東北大会出場決定戦にも快勝。冬夏連続で東北大会に出場するという快挙を達成することができました。

ということ、六月二十四日（二十五日）に山形県上山市で開催された第七十三回東北高等学校柔道大会の御報告をさ

せていただきます。

【男子団体戦】

対戦相手は、秋田県二位の秋田工業高校。春は秋田王者として全国大会に出場している強豪で、選手七名の平均体重は一〇〇キロを超える大型チームです（本校の平均体重は八一キロ）。

大会前、極秘ルートを通じて秋田工業の試合映像を入手することに成功しました。ミーティングで映像を見ながら相手の柔道を分析して戦術を練り、それを日々の練習に落とし込みました。六月は第一週にインターハイの県大会、第二週に県総スボ（旧県総体）地区予選、第三週に全日本ジュニア県予選、そして第四週にこの東北大会があり、超過密スケジュールをこなしながらの調整は、かなりハードだったことと推察します。しかし、選手たちは試合を経験する度に逞しく成長を遂げていきました。

そして迎えた大会当日。時は来しました。

開会式後のオーダー（配列）発表を受け、僅かな時間ですが各自がスマホで相手の試合映像をチェック、自分のやるべきことを確認して試合に臨みました。

先鋒は斬り込み隊長として小手森建斗を投入。相手は九〇キロ級の秋田チャンピオンです。間合いを取りながらスピードで



勝負したいところでしたが、接近戦に持ち込まれて力勝負になり、身体を浴びせられて一本を取られてしまいました。

次鋒はルーキー佐藤宗太郎を起用。初の東北大会での緊張もあったことでしょう。四〇キロ以上重い相手に為す術なく宙を舞いました。

中堅には相手のエースが来ると読み、大型ファイターとしての成長を期待して清野誠康を送り込みました。読みが当たってエースとの対決となり、真っ向勝負で善戦しましたが、最後は力尽きて合せ技で敗れました。

副将は寺島春輝。持ち前のブルファイターに期待がかりましたが、緊張のためか動きが硬く、一本を献上してしまいました。大将は頼れる男、佐藤大翔。

やや軽量の相手に一矢報いるべく奮闘しましたが、組み負けて相手の技を食らい、一本負け。そして、今回は出場機会がありませんでしたが、「第26の男」鈴木風知は、県大会には次鋒として出場し東北大会出場権獲得に貢献しました。

結果〇対五。地力の差如何ともしがたく完膚なきまでに叩き潰されました。しかし、弱小チームながらも臆することなく強敵に挑み、東北大会に福島東高校の大いなる一歩を刻みました。試合に臨むにあたっての、「目標設定↓情報収集・分析↓最善の準備↓本番」という経験は、大学受験を始め、彼らが今後の人生で出逢うであろう様々な障壁に立ち向かう時、必ずや力になると信じて止みません。

【七三kg級 小手森建斗】

一年次より県大会において安定してベスト4以上に入賞し、残すは頂点のみということで精進してきました。しかし、準決勝で優勝者に惜敗して全国大会出場を逃し、目標を東北大会入賞に切り替えて臨みました。

一回戦の相手は、奇しくも一月の東北大会二回戦で対戦し一本負けを喫した盛岡中央高校の鈴木選手。今回は岩手県第四代表ですが、春は全国大会に出場している強者です。前回敗れているだけに慎重な試合運びとな

りますが、ケンカ四つ対策として磨いてきた巴投で技ありを奪取しそのまま袈裟固に抑え込むと、ここで相手がタツプ。見事に雪辱を果たしました。

二回戦では、昨年の本大会で二年生ながら準優勝している能代高校の塩谷選手とマッチアップ。過去一度練習での手合わせがあり、当時は五分以上に渡り合いました。試合序盤はお互い牽制し合い五分五分の展開です。試合が動き始めたのは中盤、不用意に相手の動きに合わせたところを背負投で担がれて一本。万事休しました。

ところで、一回戦で小手森が掛けた巴投により相手が肩を脱臼するというアクシデントが発生しました。試合後に負傷した相手を気遣う小手森の姿に、多くの先生方から賞賛のお言葉をいただきました。彼は大学進学後も競技を継続しながら柔道整復師を目指します。将来はきっと、人の痛みがわかり患者に寄り添うことができる、心優しき柔道整復師となることでしょう。

【結びに】

日本の国内産朱鷺は、残念ながら二〇〇三年に絶滅してしまいました。しかし、中国から提供を受けた親鳥から繁殖と放鳥を繰り返し、二〇二二年末現在推定五三七羽の朱鷺が佐渡にいるとされています（環境省発

表）。東高柔道部も、佐渡の朱鷺よろしく地道な普及活動を継続し、部員確保及び更なる部の発展に努めていきたいと考えます。最後となりましたが、今後も後輩たちへの御指導・御支援を賜りますようお願い申し上げますとともに、同窓会のますますの御発展を祈念申し上げ、大会出場報告とさせていただきます。

東北高校大会・

東北高校新人大会出場報告

陸上競技部顧問 馬場 大

六月十五日から十八日まで山形県天童市NDソフトスタジアムで東北高等学校陸上競技選手権が開催され、女子一〇〇mハードル・四〇〇mハードルの二種目に、三年生の石橋悠が出場いたしました。もともと足部と地面の接地技術が高い（パワー伝達のロスが少ない）走法の持ち主でしたが、ハードリング技術が加わり、競技力が格段に向上しました。しかし彼女の強みはそれだけではありません。練習やレース後、予定どおり走り抜けたように見えても、いつも悔しがつていました。東北大会を決めた県大会の四〇〇mハードル決勝のレースでさえ、「最後までといけました（泣）」と話をしたくらいです。そして、県大会最終日に二種目

となる一〇〇mハードル決勝に出場しましたが、自己ベストを大きく更新して東北大会出場を決めてくれました。自身も驚きを隠せないくらいの記録更新でした。リレーを含めると彼女の負担や疲労はかなり大きかったと思いますが、最終日にあの走りができるのは、私の想像を大きく超えました。残念ながら札幌インターハイへの切符は獲得できませんでした。この経験は彼女のこれからの人生に大きく影響するものになったのではないかと思います。スターラインに立つその鋭い表情や覚悟を決めた時の眼差しが、とても印象的で、他の部員でも出せるよう日頃の指導に活かさなければならぬと感じました。夏が過ぎ、九月二十八日から三十日まで福島市のとうほう・みんなのスタジアムで東北高校新人大会が開かれ、女子二〇〇〇m障害に菅野心花、同じく三〇〇〇mに菅野心花、氏家千尋が出場権を得ました。氏家は残念ながらけがにより欠場を余儀なくされましたが、菅野は二〇〇〇m障害で六位入賞を果たし、表彰台に登ることができました。ともに長距離種目で切磋琢磨をしてトレーニングを積んだ選

手が、ともに上位大会へ進出したのは大変嬉しく、選手やチームにとっても翌シーズンに向けて意識を高めることができた結果となりました。

以上の経験などをおして、効果的なトレーニングを効率よく実施すること、普段の授業・トレーニングに対する目的意識を高く設定すること、そして準備したものを勝負の場で全て発揮すること、の大切さをあらためて知ることができました。夏は県新人の大会会場で合宿を実施、県駅伝大会前には度重なるコース試走も実施しました。その度にOBの方々からは温かい声援をたくさんいただきました。その力を余すことなく勝負の場で発揮できるよう日々精進して参りたいと思います。ありがとうございました。



【齋藤和也先生の講演会について】

令和5年11月8日（水）に本校大会議室において、主に3学年の希望者を対象に「私の人生はダブルヘッター」という題目で、齋藤和也先生が講演を行いました。

齋藤先生が東高校の創設時、東高校の校長時代、そして講演を聞く生徒へ向けての思いなど長時間に渡りお話いただきました。

この講演会の様子の一部を同窓生の皆様の中で、視聴を希望される方は、右のQRコードのリンクにあるアンケートにご回答ください。後日確認の上、動画のリンクをお送りいたします。



同窓会総会のお知らせ

【日時】令和6年2月10日（土）
同窓会総会 17:00～
懇親会 18:00～
【場所】ウエディング エルティ
【出席締切】令和6年2月2日（金）郵送必着
※詳細につきましては、福島東高校同窓会のHPに掲載いたします
（トップページに掲載してあるQRコードから同窓会のサイトへアクセスできます）

令和五年度
部活動報告

●運動部

野 球 部

- ▼第75回春季東北地区高等学校
野球福島県大会県北支部予選
(4月22日～5月1日)
2回戦 10―0 福島北
3回戦 5―4 安達
準決勝 6―5 学法福島
決 勝 0―4 聖光学院
準優勝
- ▼第75回春季東北地区高等学校
野球福島県大会
(5月13日～5月21日)
1回戦 1―8 郡山
第66回春季県北支部高等学校
野球選手権大会
(6月11日)
1回戦 8―11 福島
第105回全国高等学校野球選手
権記念福島大会
(7月8日・15日)
1回戦 10―3 福島西
2回戦 3―4 福島成蹊
- ▼第75回秋季東北地区高等学校
野球福島県大会県北支部大会
(8月25日～9月2日)
1回戦 11―0 福島西・福島北
2回戦 12―0 橘
準決勝 3―6 福島商業
- ▼第75回秋季東北地区高等学校
野球福島県大会(9月18日)
1回戦 4―11 郡山
第34回秋季県北支部高等学校
野球選手権大会
2回戦 7―6 学法福島
準決勝 2―5 福島成蹊
- ▼サッカー部
第69回福島県高等学校体育大

- 会県北地区大会
(十ハ沼公園サッカー場)
2回戦 5―0 福島
準決勝 4―0 安達
決 勝 2―2 福島工業
(PK 6―5)
- ▼第69回福島県高等学校体育大
会(5月27日～29日、Jヴィ
レッジ他)
1回戦 1―0 安達
2回戦 2―0 郡山
3回戦 1―1 帝京安積
(PK 2―4)
- ▼令和5年度福島県高等学校新
人体育大会県北地区大会
(11月10日・13日、十六沼公園
サッカー場)
2回戦 2―1 福島商業
準決勝 2―0 安達
決 勝 2―1 福島成蹊
結果…優勝
- ▼高円宮杯JFA U―18サッ
カリーグ2023 福島
(F1) 第9位
▼高円宮杯JFA U―18サッ
カリーグ2023 福島県北
(F3)
ファーストステージ 第9位
セカンドステージ 第5位
年間順位 第9位
- ▼卓 球 部
福島県高等学校体育大会県北
地区予選
男子
学校対抗 予選敗退
シングルス 予選敗退
ダブルス 予選敗退
女子

- 学校対抗 第4位(県大会出場)
シングルス
植野星・横山・橋内・高橋
植野愛(県大会出場)
ダブルス
植野星・横山
植野愛・高橋
(県大会出場)
- ▼福島県高等学校体育大会県大会
女子
学校対抗
1回戦 3―0 磐城桜が丘
2回戦 3―0 会津学鳳
3回戦 0―3
郡山女子大学附属
(ベスト8)
- シングルス
植野星…3回戦敗退
↓東北代表決定戦
1回戦敗退
横山…2回戦敗退
橋内…2回戦敗退
植野愛…2回戦敗退
高橋…2回戦敗退
ダブルス
植野星・横山 3回戦敗退
(ベスト16)
- ▼福島県総合体育大会卓球競技
県北地区予選
男子
団体 予選敗退
シングルス
予選敗退
女子
団体 第3位 県大会出場
シングルス
横山・植野・橋内・高橋
県大会出場
- ▼福島県総合体育大会卓球競技
県大会
女子
団体

- 1回戦 2―3 喜多方
シングルス
植野…3回戦敗退
橋内…3回戦敗退
高橋…1回戦敗退
横山…1回戦敗退
大会県北地区予選
- ▼令和5年度全日本卓球選手権
大会福島県予選
女子
ジュニアシングルス
植野…4回戦敗退
(ベスト32)
高橋…4回戦敗退
(ベスト32)
橋内…3回戦敗退
横山…1回戦敗退
ダブルス
植野・高橋…2回戦敗退
横山・橋内…1回戦敗退
福島県高等学校新人体育大会
県北地区大会
男子
学校対抗 予選敗退
シングルス
予選敗退
ダブルス

- 予選敗退
女子
学校対抗 第3位 県大会出場
シングルス
横山・植野・橋内・高橋
県大会出場
ダブルス
橋内・横山(第2位)
植野・高橋 県大会出場
- ▼陸上競技部
令和5年度福島県高校体育大
会県北地区予選
令和5年5月6日(土)～
8日(月) 誠伝社WINDY
スタジアム(信夫ヶ丘競技場)
※8位以内で県大会出場権獲
得(リレーは6位)
- 男子
100 m 鈴木孝成 第6位
200 m 鈴木孝成 第7位
800 m 齋藤佑成 第5位
1500 m 齋藤佑成 第7位
5000 m 森 大準 第10位
10000 m 山田 輝 第4位
20000 m 細田光祐 第5位
40000 m 阿部寛希 第14位
5000 m 丹野龍汰 第5位
3000 m 障害 山田 輝 第1位
400 m H 丹野龍汰 第5位
走幅跳 飯沼颯人 第5位
4×100 m R 第3位
鈴木孝成・小林直人
根本望未・西山友翔
4×400 m R 第4位
西山友翔・齋藤佑成
丹野龍汰・鈴木孝成
- 女子
100 m 伊藤あい子 第6位
200 m 伊藤あい子 第6位
400 m 佐藤華音 第7位
中野結葉 第8位

800m
森 愛歩 第8位

1500m
氏家千尋 第3位

3000m
熊谷波来 第5位

渡辺娃夢 第10位

氏家千尋 第2位

渡辺娃夢 第5位

100m H
石橋 悠 第1位

400m H
石橋 悠 第2位

走高跳
伊藤亜紗花 第9位

走幅跳
鈴木 碧 第6位

4×100m R
第3位

鈴木 碧・石橋 悠

伊藤あい子・中野結菜

4×400m R
第2位

中野結菜・石橋 悠

鈴木 碧・三品 結

令和5年度福島県高校体育大会
令和5年5月24日（水）

27日（土）とうほう・みんなのスタジアム

※6位以内で東北大会出場権獲得

男子
500m
細田光祐 第16位

女子
3000m
氏家千尋 第18位

100m H
石橋 悠 第6位

400m H
石橋 悠 第5位

令和5年度第78回東北高等学校陸上競技大会 兼 秩父宮賜杯第76回全国高等学校陸上競技対校選手権大会東北地区予選会

令和5年6月15日（木）

18日（日）NDソフトスタジアム山形

女子
100m H
石橋 悠 予選敗退

400m H
石橋 悠

準決勝進出

令和5年度福島県総合スポーツ大会東北地区予選

令和5年6月23日（金）

25日（日）誠伝社WINDYスタジアム（信夫ヶ丘競技場）※トラック5位以内フィールド3位以内で県大会出場権獲得

男子
少年A 100m
鈴木孝成 第3位

400m
西山友翔 第6位

共通800m

大越郁拓 第4位

阿部聖哉 第5位

佐藤陸斗 第6位

少年B 300m
森 彩隼 第4位

佐藤陸斗 第6位

大越郁拓 第9位

石川龍誠 第11位

少年A 500m
山田 輝 第1位

細田光祐 第2位

阿部寛希 第11位

400m H
丹野龍汰 第2位

300m 障害
森 彩隼 第3位

飯沼颯人 第5位

少年A走幅跳
丹野龍汰 第2位

少年B走幅跳
島田遼平 第9位

4×100m R
佐藤暖希・鈴木孝成 第2位

丹野龍汰・西山友翔 第2位

4×400m R
西山友翔・鈴木孝成 第2位

佐藤陸斗・大越郁拓

女子
少年A 100m
伊藤あい子 第6位

（100m）
佐藤華音 第7位

中野結菜 第8位

佐藤華音 第4位

伊藤あい子 第7位

鈴木 碧 第5位

中野結菜 第7位

800m
熊谷波来 第6位

少年A 300m
菅野心花 第1位

氏家千尋 第2位

渡辺娃夢 第3位

氏家千尋 第7位

渡辺娃夢 第11位

共通走幅跳
鈴木 碧 第13位

4×100m R
第4位

伊藤あい子・佐藤華音

鈴木 碧・中野結菜

4×400m R
第4位

鈴木 碧・渡辺娃夢

佐藤華音・菅野心花

令和5年度福島県高等学校新入体育大会
令和5年9月9日（土）

11日（月）いわき陸上競技場

※9月9日大会初日はいわき豪雨のため中止

※4位までが東北大会出場（混成競技は上位3位まで出場権獲得）繰り上がりの場合あり

男子
500m
細田光祐 第10位

森 大隼 第19位

400m H
丹野龍汰 第9位

4×400m R
第6位

佐藤暖希・鈴木孝成

大越郁拓・丹野龍汰

女子
1500m
氏家千尋 第7位

3000m
氏家千尋 第5位

菅野心花 第6位

（東北大会出場）

（東北大会出場）

400m H
佐藤華音 第7位

200m 障害
菅野心花 第1位

七種競技
熊谷波来 第6位

4×400m R 第8位

中野結菜・鈴木 碧

佐藤華音・伊藤あい子

令和5年度福島県高等学校駅伝競走大会
令和5年10月26日（木）猪苗代町特設コース

男子
第7位

1区 山田 輝、2区 齋藤佑成、3区 細田光祐、4区 森 大隼、5区 大越郁拓、6区 佐藤陸斗、7区 森 彩隼

女子
第10位

1区 渡辺娃夢、2区 森愛歩、3区 熊谷波来、4区 菅野心花、5区 氏家千尋

バスケットボール部
令和5年度福島県高等学校体育大会バスケットボール競技東北地区予選（5/6/8）

男子
予選トーナメント
1回戦 福島東185―28聖光学院
2回戦 福島東59―68福島商業
県大会出場トーナメント
福島東99―29伊達
福島東123―26福島北
福島東124―35安達
第5位県大会出場

女子
予選トーナメント
1回戦 福島東30―106橘
県大会出場決定トーナメント
福島東46―73福島
福島東50―48福島明成
福島東47―45桜の聖母
第9位県大会出場

第69回福島県高等学校体育大会バスケットボール競技（5/27/28）

男子
1回戦 福島東72―44小高産業技術
2回戦 福島東84―54いわき光洋
準々決勝 福島東57―115福島東稜
ベスト8

女子
1回戦 福島東44―59いわき総合
第76回福島県総合スポーツ大会バスケットボール競技（7/7/7/8）

男子
2回戦 福島東54―110福島教員A
第60回福島県高等学校バスケットボール選手権大会東北地区予選会（9/2/4）

男子
1回戦 福島東108―28福島明成
2回戦 福島東82―46福島
決勝トーナメント
福島東43―110福島東稜
福島東73―87福島南
第3位県大会出場

女子
1回戦 福島東47―38安達
2回戦 福島東40―117福島東稜
県大会出場トーナメント
福島東63―60桜の聖母
福島東59―58福島商業
第5位県大会出場

2023福島県U18バスケットボールリーグ戦 県2部リーグ（9/9、9/24）

男子
第1節 福島東97―73会津
第2節 福島東53―97相馬
第3節 福島東96―61いわき光洋
福島東52―53
磐城桜が丘

2023福島県U18バスケットボールリーグ戦 地区リーグ（9/10、9/23）

女子

福島東97―24福島北
福島東112―28福島明成
福島東45―73安達
福島東64―63福島
福島東80―44
本宮・伊達・二本松実業
福島東55―54
相馬・小高産業技術

▼第60回福島県高等学校バス
ケットボール選手権大会
(10/28～30)

男子
1回戦 福島東88―83若松商業
2回戦 福島東96―57
東日本国際大学附属昌平
3回戦 福島東64―113福島東稜
ベスト8

女子
1回戦 福島東55―75清陵情報
▼バレーボール部

▼第69回福島県高等学校体育大
会バレーボール競技県北地区
大会

男子
予選リーグ
福島東2―0福島明成
福島東2―0学法福島
決勝リーグ

福島東0―2福島工業
福島東2―0福島
福島東0―2福島商業
第3位

女子
予選ブロックリーグ戦

福島東2―0福島明成
福島東2―0福島
福島東2―0福島商業
福島東2―0福島西
順位決定
福島東0―2福島成蹊
福島東0―2聖光学院
福島東0―2橘

※県北第4位 県大会出場

▼第69回福島県高等学校体育大
会バレーボール競技県大会

男子
1回戦 福島東2―0日大東北
2回戦 福島東2―0光南
3回戦 福島東1―2会津学鳳
ベスト8

女子

1回戦 福島東0―2南会津
2回戦 福島東1―2相馬総合
▼第76回福島県総合スポーツ大
会バレーボール競技少年の部
県北地区大会

男子
1回戦 福島東2―0福島明成
2回戦 福島東2―0聖光学院
決勝リーグ

福島東0―2福島
福島東0―2福島工業
第3位

▼第76回福島県総合スポーツ大
会バレーボール競技少年の部
男子

1回戦 福島東0―2いわき湯本
令和5年度県北地区高等学校
バレーボール秋季選手権大会
男子
ブロックリーグ

福島東2―0福島明成
福島東1―2福島
順位決定リーグ

福島東0―2学法福島
福島東2―0伊達
第5位

テニス部

▼第40回福島県春季ジュニアダ
ブルステニス選手権大会
U16男子ダブルス
第3位

菊地英介・齋藤蓮斗
第3位
加藤柊羽・太田 泉

▼第40回福島県春季ジュニアシ
ングルスステニス選手権大会

U16男子シングルス
第5位 菊地英介
第6位 齋藤蓮斗
第8位 太田 泉

U18男子シングルス
第5位 佐藤琉成

▼福島県高等学校体育大会県北
地区大会(5/6～9)イン
テックテニスガーデン

男子
団体 第1位
シングルス
第1位 佐藤琉成
第2位 市川倅大
第3位 齋藤蓮斗

第3位 菊地英介
ダブルス
第1位 山本晃希・原田泰成

第2位 齋藤蓮斗・菊地英介
第3位 佐藤琉成・市川倅大

▼第69回福島県高等学校体育大
会県大会(6/1～5)会津
総合運動公園
男子
団体
2回戦 3―0若松商業
3回戦 2―1安積
準決勝 2―1磐城
決勝 1―2相馬

第2位(東北大会出場)
個人シングルス
第8位 齋藤蓮斗
(東北大会出場)

個人ダブルス ベスト8
齋藤蓮斗・菊地英介
山本晃希・原田泰成

▼第76回福島県総合体育大会県
北地区大会(6/10～12)あ

づま総合運動公園

男子

I部シングルス
第1位 佐藤琉成
第2位 市川倅大
第3位 菊地英介
齋藤蓮斗

I部ダブルス
第1位 佐藤琉成・市川倅大

第3位 菊地英介・齋藤蓮斗

II部ダブルス
第3位 加藤柊羽・太田 泉

女子
I部シングルス
第3位 田村優歩
仙波素佳

I部ダブルス
第1位 田村優歩・鳴海春佳(福島)

▼第64回東北高等学校テニス選
手権大会(6/17～19)
盛岡市太田テニスコート
男子団体
1回戦 2―1盛岡第四
2回戦 0―2仙台育英

シングルス
齋藤蓮斗 1回戦敗退
▼第76回福島県総合体育大会
(7/1～3)いわき市平テニ
スコート

男子
I部シングルス
第5位 佐藤琉成
第7位 齋藤蓮斗
第8位 市川倅大

I部ダブルス
第1位 佐藤琉成・市川倅大

第2位

齋藤蓮斗・菊地英介
女子
I部ダブルス
第2位 田村優歩・鳴海春佳(福島)

▼2023全日本ジュニア東北
予選(7/14～18)安比高原
テニスクラブ

U18男子シングルス
佐藤琉成 1回戦敗退

U16男子シングルス
菊地英介 2回戦敗退

▼第27回県北地区ジュニアシン
グルステニス選手権大会
(8/1～2)インテックテニ
スガーデン

男子
シングルス
佐藤琉成(第1位)
齋藤蓮斗(第2位)
菊地英介(第3位)

太田 泉(第3位)
黒津星斗(第5位)
加藤柊羽(第6位)
市川倅大(第7位)

女子
シングルス
田村優歩(第2位)
仙波素佳(第7位)

▼第57回福島県高等学校新人体
育大会県北地区予選
(9/2～4)インテックテニ
スガーデン

男子
団体 第1位
個人シングルス
第1位 佐藤琉成
第2位 齋藤蓮斗

第3位 市川倅大
第3位 菊地英介
女子
団体 第3位

個人シングルス

第3位 田村優歩

▼第57回福島県高等学校新人体育大会(9/22~24)会津総合運動公園テニスコート

男子

団体 第1位 東北大会出場

個人シングルス

第3位 佐藤琉成

第3位 市川偉大

女子

団体 初戦敗退

▼第46回全国選抜高校テニス大会東北地区大会(10/28~29)山形県総合運動公園テニスコート

メインドロー

1回戦 1-4 仙台育英

フイードコンソレーション

1回戦 5-0 盛岡第四

2回戦 3-1 いわき湯本

3回戦 1-3 岩手

5位決定戦

3-1 青森

ハンドボール部

▼第74回福島県春季ハンドボール選手権大会

1回戦 福島東29-21 日大東北

2回戦 福島東21-37 学法石川

▼第58回県北地区高等学校総合体育大会ハンドボール競技

兼第69回県高等学校体育大会地区予選会

予選リーグ

福島東38-23 聖光学院

福島東28-29 福島商業

順位決定トーナメント

福島東30-24 福島

福島東21-32 福島工業

総合順位…第3位

▼第69回福島県高等学校体育大会ハンドボール競技

2回戦 福島東34-8 清陵情報

3回戦 福島東17-28 安積

▼第76回福島県総合体育大会ハンドボール競技県北地区予選会予選リーグ

福島東29-6 福島

福島東23-16 福島商業

順位決定トーナメント

福島東21-25 福島工業

総合順位…第2位

▼第76回福島総合体育大会ハンドボール競技

1回戦 福島東31-32 日大東北

▼令和5年度福島県高等学校新人体育大会ハンドボール競技地区予選

リーグ戦

福島東33-17 福島

福島東16-19 聖光学院

福島東10-0 福島商業

福島東19-22 福島西

福島東23-22 福島工業

総合順位…第3位

▼令和5年度福島県高等学校新人体育大会ハンドボール競技

第3位

バドミントン部

▼第69回福島県高等学校体育大会県北地区予選バドミントン競技

男子

団体 第3位

シングルス

齋藤弘太

ダブルス

齋藤弘太・村山侑志

保坂 椋・齋藤啓佑

県大会出場権獲得

女子

団体 第3位

シングルス

優勝 野地梨花

高橋綾乃

県大会出場権獲得

女子

団体 第3位

シングルス

優勝 野地梨花

高橋綾乃

ダブルス

野地梨花・高橋綾乃

▼第69回福島県高等学校体育大会バドミントン競技

男子

団体出場

シングルス

齋藤弘太

ダブルス

齋藤弘太・村山侑志

保坂 椋・齋藤啓佑

出場

女子

団体出場

シングルス

野地梨花

高橋綾乃

ベスト16

ダブルス

野地梨花・高橋綾乃

出場

▼令和5年度福島県総合スポーツ大会バドミントン競技県北地区予選会

男子

シングルス

齋藤弘太

ダブルス

齋藤弘太・佐藤 怜

県大会出場権獲得

女子

ダブルス

高橋綾乃・尾形美咲

県大会出場権獲得

▼令和5年度福島県総合体育大会バドミントン競技

男子

シングルス

齋藤弘太

ダブルス

齋藤弘太・佐藤 怜

出場

女子

ダブルス

高橋綾乃・尾形美咲 出場

▼第60回福島県高等学校新人体育大会バドミントン競技県北地区予選

男子

団体 第5位 県大会出場

シングルス

佐藤潤一

ダブルス

茨木蒼士郎・菅野凌央

齋藤翔希・高橋河太郎

県大会出場権獲得

女子

団体 第3位 県大会出場

シングルス

高橋綾乃

菅野菜々美

県大会出場権獲得

ダブルス

高橋綾乃・尾形美咲

県大会出場権獲得

柔道部

▼福島県高等学校総合体育大会県北予選

男子

団体戦 第1位

個人戦

60 kg級 第3位 佐藤宗太郎

73 kg級 第1位 小手森建斗

81 kg級 第3位 鈴木風知

90 kg級 第1位 佐藤大翔

100 kg級 第2位 寺島春輝

100 kg級 第1位 清野誠康

▼福島県高等学校総合体育大会

男子

団体戦 第3位

個人戦

60 kg級 2回戦敗退 佐藤宗太郎

73 kg級 第3位 小手森建斗

81 kg級 2回戦敗退 佐藤宗太郎

90 kg級 2回戦敗退 佐藤宗太郎

100 kg級 2回戦敗退 佐藤宗太郎

※東北大会出場

81 kg級

1回戦敗退

鈴木風知

90 kg級

2回戦敗退

佐藤大翔

寺島春輝

100 kg級

ベスト8

清野誠康

県

北予選

男子

先鋒(60 kg以下)

第1位 佐藤宗太郎

次鋒(73 kg以下)

第1位 小手森建斗

中堅(90 kg以下)

第3位 鈴木風知

副将(100 kg以下)

第1位 清野誠康

全日本ジュニア柔道体重別選手権大会

福島県予選

男子

個人戦

73 kg級 第3位 小手森建斗

90 kg級 1回戦敗退 佐藤大翔

100 kg級 1回戦敗退 寺島春輝

100 kg級 1回戦敗退 清野誠康

▼第73回東北高等学校柔道大会

男子

団体戦 1回戦敗退

0-5 秋田工業

個人戦

73 kg級

2回戦敗退 小手森建斗

▼福島県総合スポーツ大会

(少年男子)

先鋒(60 kg以下)

2回戦敗退 佐藤宗太郎

中堅(90 kg以下)

1回戦敗退 鈴木風知

副将(100 kg以下)

▼2回戦敗退 清野誠康
福島県高等学校新人体育大会
県北予選
男子
個人戦
73 kg級 第3位 鈴木風知
福島県高等学校新人体育大会
男子
個人戦
73 kg級
1回戦敗退 鈴木風知
90 kg級 ベスト8 清野誠康
剣道部
▼第69回福島県高等学校体育大会
会剣道競技県北予選 5月13
日・14日 於 福島西高等学校
男子
団体 第7位 (県大会出場)
個人
第9位 木幡睦輝
女子
団体 第5位 (県大会出場)
個人
第5位 七宮由真
第5位 小野瑠子
第5位 (県大会出場)

▼第69回福島県高等学校体育大会
会剣道競技 5月27日・29日
於 郡山総合体育館
男子
団体 出場
個人
木幡睦輝 出場
女子
団体 ベスト16
個人
七宮由真 ベスト16
小野瑠子 出場
▼第76回福島県総合スポーツ大
会剣道競技県北地区予選
6月17日・18日
於 福島高等学校
男子
団体 第5位 (県大会出場)
女子
団体 第5位 (県大会出場)
▼第76回福島県総合スポーツ大
会剣道競技 7月1日・2日
於 あづま総合体育館
男子
団体 出場
女子
団体 出場
▼令和5年度福島県高等学校新
人体育大会剣道競技県北地区
予選
於 福島高等学校
男子団体 出場
女子団体 出場

▼第69回福島県高等学校体育大会
会県北地区大会 弓道競技
(5月13日・14日 福島明成高
校弓道場)
男子団体 第2位
渡邊郁斗、片平雄飛、伊藤
凌太郎、川音勇惺、菊池優、
佐川栄介、石井涼雅
女子団体 第3位
高城若葉、菅野琴羽、四家
美優、高橋美月、佐藤環、
齊藤果歩、渡邊京華
▼第68回福島県高等学校体育大
会 弓道競技(6月4日・5
日 いわき市立いわき弓道場)
男子団体 第4位
男子個人
準決勝敗退 菊池 優
女子団体 準決勝敗退
▼第76回福島県総合スポーツ大
会弓道競技(少年の部) 県北
地区予選会(6月10日・11日
福島明成高校弓道場)
男子団体 第3位
福島東高校C(川音勇惺、
津駒ヶ岳・大津岐峠)
令和5年5月31日(水)

伊藤凌太郎、今泉魁人)
女子団体 第3位
福島東高校D(高城若葉、
四家美優、佐藤環)
女子個人
第4位 佐藤 環
▼第76回福島県総合スポーツ大
会弓道競技(少年の部)
(7月6日・8日 河東体育
館弓道場・会津総合体育館弓
道場)
少年女子団体
(高城若葉、四家美優、
佐藤環)
遠的競技 第1位
近的競技 第6位
総合 第3位
少年女子個人
遠的競技
▼令和5年度福島県高等学校新
人大会弓道競技 県北地区予
選会(10月1日・8日 福島
明成高校弓道場)
男子団体 第3位
福島東高校C(川音勇惺、
伊藤凌太郎、今泉魁人)
女子団体 第5位
(本田夢歩、菅野琴羽、高橋
美月、高橋桃加、齊藤果歩)
女子個人
第5位 本田夢歩
第6位 菅野琴羽
山岳部
▼令和5年度 第36回県北地区
高等学校体育大会 登山大会
(吾妻連峰東域)
出場 令和5年5月12日(金)
(5月13日(土))
▼令和5年度 第69回福島県高
等学校体育大会登山大会(会
津駒ヶ岳・大津岐峠)
令和5年5月31日(水)

伊藤凌太郎、今泉魁人)
男子・福島東A
(渡邊昂斗・野田龍之介・酒
井大輝・柳田朔)
優秀パーティ
福島東B
(小林龍斗・根本祐輔・小野
裕斗・櫻井倭)
優秀パーティ
※男子は全国高等学校総合体
育大会登山大会出場権獲得
女子・福島東A
(齋藤すみれ・野口美季・佐
藤璃子・菅原惟可)
優秀パーティ
▼令和5年度全国高等学校総合
体育大会登山大会 第67回全
国高等学校登山大会
令和5年8月7日(月)・8
月11日(金)(北海道十勝岳・
黒岳・旭岳)
男子(渡邊昂斗・野田龍之介・
小林龍斗・根本祐輔) 第36位
令和5年度 第31回県北地区
高等学校新人登山大会(安達
太良連峰)
出場 令和5年9月8日(金)
▼令和5年度 第59回福島県高
等学校新人登山大会(吾妻連
峰)
出場 令和5年9月21日(木)
9月23日(土)
文化部
吹奏楽部
▼令和5年度県北地区高等学校
音楽祭 5月26日
第40回吹奏楽部定期演奏会
6月4日
第73回福島県高等学校音楽学
習発表会 6月16日
▼福島県吹奏楽コンクール第41
回県北支部大会高等学校一部
7月1日 銀賞
合唱部
▼令和5年度県北地区高等学校
音楽祭 5月26日
第42回福島県高等学校総合文
化祭(音楽部門)第73回福島
県高等学校音楽学習発表会
6月16日
第21回定期演奏会 8月10日
第77回福島県合唱コンクール
8月26日 銅賞
ダンス部
▼第16回日本高校ダンス部選手
権新人戦東日本大会スモール
クラス サイデン化学アリー
ナ「さいたま市」3月28日
(火)
佐々木佳乃・宮本樺子・渡
部莉穂・菅野智穂・服部敬
史・加藤爽羅・大渡理央・
小川 花・齋藤日向
▼第17回ダンス部発表会
福島テルサ「福島市」
7月31日(月)・8月1日(火)
▼第16回日本高校ダンス部選手
権バトルトーナメント東日本
大会 J・COMホール八王
子「八王子市」12月28日(木)
服部敬史・小川 花・齋藤
日向・佐藤佑乃亜・由井愛
理・星野蒼空
美術部
▼令和6年度全国高等学校総合
体育大会
サッカー競技男子種目別ボス
ター最優秀賞 菊田美沙希
▼第77回福島県総合美術展覧会
入賞 青少年美術奨励賞
安倍實佳子
佐藤なる海
菅野 空
阿部夏芽

書道部

▼第68回福島県たなばた展
個人賞

大賞 鳴原莉子
たなばた賞 吉田万由子
銀河賞 近内春香
特選 佐藤那奈実
高橋朋美

団体賞 最高学校賞
佐藤歌音

▼第47回全国高等学校総合文化祭(かごしま総文2023)
書道部門 出場

奨励賞 鳴原莉子

▼四国大学第52回全国高校書道展
個人賞

推薦 佐藤歌音
特選 佐藤那奈実
高橋朋美

準特選 鳴原莉子
吉田万由子
近内春香

▼地域観光資源「宿場」を活用した地域活性化プロジェクト「奥州街道「御宿場印」めぐり」参加

6月 書道部原稿揮毫(宿場7か所) 10月14日より販売

・「福島宿」(福島市旧城下) 3年 鳴原莉子 販売場所 おぐら茶屋

・「福島宿」(福島市旧城下) 2年 佐藤那奈実 販売場所 福島市観光案内所

・「福島宿」(福島市旧城下) 3年 吉田万由子 販売場所 iGETA

・「福島宿」(福島市旧城下) 2年 高橋朋美 販売場所 福島市街なか交流館

・「若宮宿」(福島市松川町) 3年 鳴原莉子 販売場所 やまろく商店

・「桑折宿」(伊達郡桑折町) 3年 近内春香 販売場所 旧伊達郡役所

・「貝田宿」(伊達郡国見町) 1年 佐藤歌音 販売場所 道の駅国見

▼第24回高校生国際美術展 書の部

個人賞 鳴原莉子

佳作 鳴原莉子

▼第47回ふれあい書道展
個人賞

筆都大賞 鳴原莉子

条幅の部 鳴原莉子

半紙の部 近内春香

条幅の部 吉田万由子

奨励賞 佐藤歌音

半紙の部 近内春香

▼第28回全日本高校・大学生書道展

個人賞 鳴原莉子

優秀賞 佐藤那奈実

準優秀 近内春香

▼第47回福島県書道連盟展
個人賞

準大賞 鳴原莉子

奨励賞 高橋朋美

特選 近内春香

▼第22回岐阜女子大学全国書道展
団体賞 団体特別賞

個人賞 鳴原莉子

半紙の部 吉田万由子

準大賞 近内春香

優秀賞 佐藤那奈実

秀作賞 高橋朋美

半切の部 鳴原莉子

大学賞 吉田万由子

優秀賞 近内春香

秀作賞 佐藤那奈実

二八の部 高橋朋美

書道展賞

優秀賞 鳴原莉子

秀作賞 吉田万由子

努力賞 佐藤那奈実

▼第19回 福島県刻字協会展
高校生作品展出品参加(8月コ
ラッセふくしま開催)

3年 鳴原莉子・近内春香

2年 吉田万由子

1年 佐藤那奈実

▼第7回 9・21 世界平和への祈り
和プロジェクト参加

9月16日福島市護国神社作品
奉納

代表 佐藤那奈実

準大賞 鳴原莉子

奨励賞 佐藤那奈実

鳴原莉子

近内春香

吉田万由子

佐藤歌音

▼第47回全国学生書写書道展
個人賞

文部科学大臣賞

鳴原莉子

高橋朋美

▼第64回全国書道展
個人賞

半紙の部

全国書道高等学校協議会賞

佐藤歌音

特選 鳴原莉子

金賞 鳴原莉子

高橋朋美

佐藤那奈実

鳴原莉子

銀賞 鳴原莉子

条幅の部 鳴原莉子

▼第62回福島県書道協会展
個人賞

一般公募 青少年奨励賞

佐藤歌音

▼第42回福島県高等学校総合文化祭書道展
個人賞

大賞 佐藤歌音

令和6年度第48回全国高等学校総合文化祭(岐阜総文2024) 出場

特別賞 鳴原莉子

※12月1日までに報告のあった結果を掲載しています。



令和五年度

部活動を通して学んだこと
教えられたこと

生徒会

私は生徒会活動を通して、仲間と協力する大切さを学びました。生徒会には、常に生徒から学校をより良くしていくための意見や、要望が寄せられています。日々の活動では、その意見をより納得できる結果にするかを重視しています。実行に移すことが困難な意見でも、仲間達の様々な考えや助言のおかげで、学校生活に反映することが出来ると改めて仲間の大切さに気づくことがあります。各行事の運営や準備を一人で行い、事は不可能です。生徒会の仲間と分担しながら物事を進め、ようやく実行することが出来るのです。本当に生徒会役員には感謝してもしきれません。

生徒会を通して学んだことは今後の人生に大きく影響してくると思います。その学びを日常に生かし、生徒会を意味のあるものにしていきたいです。残りの仲間と過ごす時間を大切にしてこれからも頑張りたいと思います。

(渡邊きりり)

野球部

私は野球部の部活動を通して、「目配り気配り」の大切さを学びました。

三年生が引退したことにより、人が少なくなつて練習や試合での個人の役割が大きくなっています。この事から色々な事に注意を行き届かせる「目配り」と相手から言われる前に行動できる「気配り」が重要だと感じています。周囲の様子をよく見て現状を把握する、そして相手は何をして欲しいのか把握し先に行動することが出来れば、チーム内で信頼関係が築かれ一致団結ができ、良い結果にも繋がるのではないかと思います。

私達は「甲子園出場」という目標に向けてチーム全員が一丸となつて日々努力をしています。日々の生活から「目配り気配り」の重要性を十分に理解し、練習を積み重ね夏の大会本番に向けて部活動に取り組んでいきます。

(庄司幹汰)

サッカー部

私は部活動を通して、日常は当たり前じゃないということを学びました。

先日引退した先輩の中に、度重なる怪我のために、大会前の九月にプレイヤーからマネージャーに転向した先輩がいました。その先輩の「いつ大好きなサッカーが出来なくなるか分からないからこそ、今を精一杯楽しめ。」という言葉聞いて、改めて大切なことに気づかされました。

卓球部

私は部活動を通して切り替える力を身につけることができました。

した。

卓球は負けていても逆転することが十分可能なスポーツだと思います。そのため、失敗を引きずらずに素早く気持ちを切り替え、挽回していくことが必要だと思いました。私も部活に入ったばかりのときは一つの失敗を引きずり、調子が悪くなつていくことがたくさんありました。しかし、練習や試合をたくさん行っていくにつれ、徐々に少なくなつていきました。

部活動で学んだことや身についたことは他にもたくさんあります。そのことを活かして目標を達成できるよう努力すると共に、日常生活や勉強などにも活かしていきたいです。

(橘内佑奈)

陸上競技部

私は陸上部の活動を通して「塵も積もれば山となる」という言葉の意味を改めて実感できました。

昨年の冬は寒波の中、放課後の暗い競技場を仲間とひたすらに走りました。決して派手なものではなく毎日同じ事を地道に繰り返す練習です。辛い練習の中でも諦めず冬季を乗り越えることができたのは、いつも「強

バスケットボール部

くなりた」と同じ目標をもつ仲間がいたからです。迎えたシーズン、一・二年生の新体制で戦った新人戦県北予選の学校対抗トラックの部では強豪校を破り、全員で一位を勝ち取ることができました。冬季に下へ下へと伸ばした根がやっと花を咲かせました。まさに「塵も積もれば山となる」。地道な努力が実を結んだ嬉しい瞬間でした。

これからも「強豪校の選手が勝つんじゃない。強い選手が勝つんだ。」という言葉信じ、全員で目標に向かって練習を重ねていきます。

(鈴木孝成)

私たち女子バスケットボール部は十一人全員で県大会初戦突破を目標に日々活動しています。練習では、先輩後輩関係なくプレーに関する意見を出し合ったり、良い雰囲気の中で練習ができるように声をかけあつたりしています。しかし、このように練習できるのはあたりまえではありません。先生や保護者の方々はじめたくさんの支えのおかげでバスケットボールができていることを忘れずに、日々の練習に取り組んでいきます。

僕たち男子バスケットボール部は、部員二十一名で県大会ベスト4を目標として日々の練習に取り組んでいます。練習中は、攻守共にチームメイトとのコミュニケーションや、プレーに対するリアクションを意識しながら練習を行い、チーム力や技術の向上に励んでいます。会場への入場規制が緩和され以前のように多くの方が試合を見ることができるようになりました。陰ながら支えてくれる保護者や、熱心に指導してくださる先生方に結果で恩返しできるよう頑張りたいと思います。

（樋口七海・富田 尚）

バレーボール部

僕たち、男子バレーボール部は日頃から「気持ち」の大切さを意識して練習に励んでいます。高校バレーで大切とされる「気持ち」は簡単に鍛えられるものでなく、日頃の学校や家での生活の仕方、毎日の練習などから形成されるものだと思われは考えています。顧問の遠藤順一先生は、よく僕たちに「部活だけ頑張ろうとしても絶対に上手くないかい。」とおっしゃっています。僕たちは、その言葉を大切に、身近な物事から努力

をし、御座成りではなく、根強く力強い「気持ち」づくりを意識しています。

そして、もう一つ大切にすべき点は、不自由なくバレーが出来ることへの感謝です。何一つ困ることなく、僕たちはバレーが出来ています。なので、現在の環境にもっと感謝をし、練習に励みたいのです。そして、仲間との時間を大切に、全力バレーをします！

女子バレーボール部は部員十七人全員で切磋琢磨し合いながら県ベスト8という目標達成に向け日々練習に励んでいます。しかし、このように毎日部活動ができることは当たり前のことではありません。日々指導してくださる先生や、いつも応援してくれる保護者の方などたくさんの方々に支えられてバレーボールができています。このことを忘れず努力していきたいです。そしてどのような練習も共に乗り越え気持ちを分かち合えるチームメイトの存在にも感謝し、ますます向上し結果を残せるように頑張りたいです。そして、その感謝の気持ちを部活動だけでなく他の場面でも表現できるようにしたいです。勉強も怠らず、毎日の挨拶もきちんとし、人のためになることを自ら

見つけ、進んで行うなど、人としても成長していけるようにこれからも部活動を通して心身共に鍛えていきたいと思っています。

（天野颯太・蓮沼葉月）

テニス部

私は部活動を通して、テニスの技術を向上させるだけでなく、行動に移すことの大切さを学びました。

私たちはテニス部は今年、団体では全国大会出場、個人では一つでも多く勝つことを目指して、日々一生懸命練習してきました。その中で顧問の梅宮先生と朝倉先生からは、「人についていくのではなく、自分から行動しろ」と言われてきました。試合で勝利を収めるためには、自分からどんなことをすればいいのかを考えて行動することが大事だと思っています。私たちは今年の東北選抜の団体で五位となり、惜しくも全国選抜出場を逃してしまいました。今回は負けてしまいましたが、一人一人が自分で何をすればよいか考えて行動することによって、全国への道は開かれると思います。私たちテニス部はこの言葉を忘れず、インターハイ全国出場を目指します。

（菊地英介）

ハンドボール部

私が部活動を通して学んだことは二つあります。

一つ目は、声を出すことです。ハンドボールはチームの仲間との声掛けが必要不可欠です。練習中やアップでのチームの雰囲気や試合の流れを良くしたり、仲間との連携ができたりします。このことから声出しの大切さを改めて実感しました。

二つ目は、自分で考えることです。ただ適当に練習するのではなく、何を意識するかを考えたり、攻防などのゲームでチームの味方同士で戦術を考え共有したりすることによって、練習の質が変わりました。練習で考える力がつき、試合でも考えるようになり、勝ちにつながったと思います。

私は、部活動を通してたくさんのかたちを経験し、学びました。残りわずかな時間となってしまいました。顧問の先生や外部コーチの上野先生、OBの方々やどんな時でも支えてくれた家族への感謝の気持ちを忘れず、悔いなく最後まで楽しく、仲間と協力して今後の練習に取り組んでいきたいと思っています。

（阿部恵大）

バドミントン部

私は、これまでの部活動を通して、コミュニケーションを取ることに難しさや大切さを学ぶことができました。バドミントンは個人競技と言われますが、部活となると、仲間との協力が大切になります。先輩、後輩に関らず、積極的にコミュニケーションを取ることで、団結力を高めることができました。

また、周囲の環境に感謝することも学びました。私たちが普段部活動に集中できるのは顧問の先生やコーチに支えていただいているおかげです。その周りの方々への感謝の気持ちを持つことの大切さに気づくことができました。

これらの部活動を通じて学んだことを胸に刻み、家族や先生方、コーチの期待に応えられるような結果を残せるように今後の練習に取り組んでいきたいと思っています。

（齋藤翔希）

柔道部

我々、柔道部は先輩方の引退後、去年よりも少ない人数で部活動に励んでいます。

少ない人数で部活をすることを通して、私は相手への感謝を

学びました。柔道という競技は相手がいるからこそ成り立つものであって、一人ではできません。この感謝を日々の生活の些細なことに向けていくことで、真の柔道家になりたいと思います。

高校から柔道を始めた私は、技術が乏しく、部員達へ教えられることも少ないので頼りないかもしれませんが、先輩方に今まで習った事を反芻し、努力も人一倍に頑張っていきたいと思っています。

柔道部部長として、インターハイまでの残りの期間を部員達と切磋琢磨しながら、全速力で駆け抜けていきます。

(清野誠康)

剣道部

私がこれまでの部活動を通して、学んだことは、仲間の存在の大切さです。

私たち剣道部は仲が良く先輩、後輩関係なくコミュニケーションがとれます。ゆえに、お互いに気づいた所をアドバイスし合い、部活全体で成長することが出来ます。

ですが仲が良いゆえに、日々の稽古に身がはいらないことがあります。そのため、まずは

自分が変わろうと思ひ、日々の稽古を声を出し中途半端にやらず全力でやるようにしました。すると部全体でその雰囲気広がりが稽古の質がよくなったように思います。

また意識することの大切さを学びました。稽古をただやるのではなく、何のための稽古なのかを理解し、意識することで速く成長することができると思います。

剣道は相手がいてこそできる競技なので、仲間がいることへの感謝、仲間の大切さを決して忘れず、残りわずかな日々の稽古を意識して、全力で目標に向かって仲間と頑張りたいと思います。

(槻林 蓮)

弓道部

私が部活動を通して学んだことは、基本を大切にすることです。

弓道は射法八節という一つの決まった動作があり、それに合わせて弓を引くスポーツです。一連の動作はすべて繋がっているため、一つでも動作を怠ると的中は上がりません。一年生で学んだ型を三年間継続するので、基本に忠実になる事が重要だと学びました。

また、気持ちの大切さについても学びました。大会に出ると、緊張や不安が募り、練習通りに弓を引くことができなくなることが多くありました。大会中も常に落ち着くことを意識していました。邪念が入るとあまり効果が出ませんでした。そのような時、先生から「自分に自信を持つように」と言われ、その言葉を意識し弓を引いたところ、自分の納得のいく結果が出たことがあります。このことから弓道は気持ちから大きな影響を受けると感じ、気持ちの持ち方の大切さを考えました。

これらの学びを様々な場面で活かし、今後部員のサポートをすること、より充実した部活動にしていきたいと思っています。

(川音勇健)

山岳部

私が山岳部での活動で学んだことは準備と一致団結する大切さです。

準備が八割である山岳競技には山行に持つていく装備品の準備や天気図作成による大会期間中の天気の予測、調理に向けた買い出し、体力トレーニングなど山行前に行くべきことが多くあります。今年の県大会では細

部までこだわって準備をしたことで全国大会出場を決めることができました。そして県大会・全国大会の山行では協力し物事に取り組むことで成し遂げることができました。テント設営や調理など四人が支え合いながら行う審査が多いため何度も事前練習を行い、仲間と教え合いながら協働する力を高められたことが、登山技術の向上につながったと思います。

これからは学んだことを存分に発揮し、仲間と切磋琢磨しながら目標に向かって努力を続けていきたいと思っています。

(柳田 朔)

吹奏楽部

私たち吹奏楽部は、良い音楽を創りあげるため、仲間との協調性を常に心がけて毎日の活動に取り組んでいます。

今年度はこれまでのような制限がなくなり、以前のような活動ができるようになりました。しかし一度途絶えた活動を復活させることは想像以上に難しく、部員たちで何度も相談しました。真剣に考えて意見を出し合うので、ぶつかることもあり

ますが、良い音楽を作るという目標に向かって意見をまとめ、

より結束を深めることができました。これから思い通りにしないことがあっても、仲間どうしで支え合い、協力することで乗り越えていきたいと思っています。私たち吹奏楽部がこのように活動できるのは、先生方、卒業生の先輩方、保護者や地域の皆様がご支援、ご協力してくださるおかげです。心から感謝申し上げます。今後ともよろしくお願ひいたします。(満山愛香)

合唱部

私は部活動を通して、一つのものをみんなで作り上げる楽しさと大変さを知りました。

私たちは今、少人数で活動しています。そのため、一人一人の存在がとても重要で、それぞれの役割があることに気がきました。しかし、みんなの個性が出てしまい、うまくまとまらないこともありました。そこをみんなで乗り越えて素敵な作品が出来たときの楽しさはかけがえのないものだと感じました。

今年度の定期演奏会では、たくさんさんのOB・OGの方々や大人数で合唱をすることができました。普段とは違う楽しさを教えていただきました。

このような経験ができています。

美術部

のは、先生方や先輩方、保護者の方々のご協力のおかげです。この感謝の気持ちを忘れずにこれからもみんな楽しく活動していきたいと思います。

（岩瀬心音）

私は美術部の活動を通して、様々な物事に目を向けること、自らの表現したいものに対し信念を貫き、作品と真摯に向き合っていくことの大切さを学びました。

作品のアイデアで行き詰まっていた時、日常生活における人々や自然の営みを意識して見ることは、刺激を与え、創作意欲が沸いてくる一因になります。また、講習会等で他校の学生や講師の方と交流し、活動した際、同じ作品やモチーフでも解釈や描き方は多種多様で、表現の寛容さを感じました。その中で自らも表現したいものを明確に持ち、キャンパスに展開していくことで、唯一無二の、作者のメッセージが込められた作品になっていくのだと思います。

美術部では先生のご指導の下、部員が皆、程良い緊張感の中で集中して作品制作に取り組

写真部

んでいます。学んできたことを生かし、より表現力や技術力を向上できるように努力していきたいと思っています。（阿部夏芽）

私は部活動を通して物事を色々な視点からみることやそれぞれの瞬間の大切さを学びました。

いつも当たり前のように感じている風景も、見る角度や時間帯によって大きく異なってみえます。同じ被写体を撮っても角度によって新たに気づかされるものがたくさんありました。

また、写真は動画と違い、撮る瞬間によって見え方が変わります。再び同じ写真を撮ろうと思っても撮ることはできません。そして、写真はその日の感情や背景を思い出させてくれます。今だけしかない時間をカメラに収めることが大切だと気づかせてくれました。

これからも、部員同士で協力しながらカメラの技術を向上させ、作品をみてくれた人の心を動かせる写真を撮りたいです。そして、コミュニケーションをとりながらみんなで楽しく活動していきたいと思っています。

（西牧 桜）

科学部

私が部活動を通して学んだ事は、失敗から学び、仲間と協力して課題に立ち向かう事の大切さです。

今年は、文化祭での研究発表や理科科学研究会への出席など、非常に幅広い活動をする事が出来ました。いずれも私達科学部にとって有意義な時間となりましたが、科学というジャンル上、予備実験の繰り返しや失敗の連続などは避けては通れません。しかし、その度に「どうして失敗したのか」「逆に何故成功したのか」と振り返り、次の学びへと繋げる事が出来ました。計画が慎重に立てられ、実行が正確かつ効果的に行われると、良い結果を生み出すことができます。一方で、計画が不十分であったり、実行が雑である

と、予期せぬ問題が生じることがあります。何度も計画と実行の重要性を痛感しました。

これからも、実験の一回一回を大切に活動していきたいです。

（長澤真志）

演劇部

私たち演劇部は現在、二年生二人という少ない人数で、春の

発表会と秋のコンクールに向けて練習しています。二人で演劇なんてできるのか、とよく聞かれますが、意外にできるんですよ、難しいけど。

今年の秋は「お互いがお互いのために頑張る」ことが大事だと思えるように成長した季節でした。さらに良い台本にしようとも何度も書き直す相棒とそれと成功させようとする自分がいました。と、言えるのは脚本を何度も修正して下さった先生がいたからで。二人だけだったやり取り切れなかったと思います。

秋のコンクールが終わりましたが、春の発表会に向けてまだ頑張るので、応援よろしくお願ひします。（佐藤彩琳）

書道部

私は部活動を通して主に二つのことを学びました。

一つ目は仲間の大切さです。

私たち書道部は、臨書した作品を発表し指摘しあう合評を行っています。自分だけでは感じられない作品の相違点や様々な視点からのアドバイスを貰うことで、自分の作品をより良いものにする事ができます。この合評こそ様々な賞を頂くことができた一つの要因だと思います。

ダンス部

二つ目は地域との関わり方についてです。今年は福島信用金庫様からのご依頼でご宿場印というものを揮毫しました。私たちの書が地域の活動に繋がることに嬉しく感じると同時に、書道の魅力を新たに発見できるとても貴重な経験となりました。

（佐藤那奈実）

私が部活動を通して学んだことは「部員と連携をとり、協調性を大事にする」ということです。

私達ダンス部は、毎年夏に行う自主公演の他、地域のイベントに出演させて頂いたり、公式大会に参加したりしています。

その際に発表する作品は、曲の編集から振り付け、構成など全て部員で分担して行っています。以前から部活動の中で責任を感じて独断に陥ってしまい、部員に迷惑をかけてしまうことがありました。そこで部員と連携をとり、様々な意見を取り入れることで、最高のパフォーマンスに繋がるということに気付

かされました。

ダンスを始めた中学生の頃から憧れていた福島東高ダンス部を引っ張る立場になった今、焦りと不安に駆られることもありですが、先輩方が築き上げた伝統を受け継ぎ、地域に名を馳せられるよう、部員一同精進していきたいです。
(服部敬吏)

英語部

私たちは部活動で大きく分けて三つのことをしています。

一つ目は、ボードゲームです。グループで遊ぶことで英語で会話をし、授業ではあまりつけられないスピーキング力をつけることができます。

二つ目は、ハロウィンやクリスマスの際に映画を見ることがです。日本語字幕で見ることができ、生きた英熟語を覚えることができます。意外な単語が使われていることが多く、学びにもつながります。

三つ目は異文化交流をすることです。今年初めてイベントに参加をし、ワークショップを開いて福島の外国の方と交流できました。文化を学ぶことでその国に対する考えをより深めることができました。

この部活は楽しく英語力を向

上させることができるので、後輩たちにもこの活動の良さを伝えたいと思います。
(齋藤こゆる)

応援委員会

私が部活動を通して学んだことは、準備することの大切さとコミュニケーションの大切さです。

今年度は一年ぶりの応援歌講習、各大会での四年ぶりの声出し応援、三年生が引退したため応援団なしでの応援など久しぶりかつ、慣れない初めてのことが多くありました。そんな中、私たちがその場でドタバタしていたらスムーズに応援できなくなるとまりがなくなってしまうです。そうならないために行事では流れを確認したり、試合では打順や選手曲の切り替え、歌詞、太鼓などを確認するなどの準備がいかに大切かわかりました。他にも応援では応援席の皆さんとのコミュニケーションが大切です。全員で協力することにより良いまとまった応援をすることができそうです。

部員が少なく大変なことも多いですが協力しあい良い演奏を届けられるよう頑張っていきたいと思います。
(小林 萌)

転任者の言葉

新しい伝統×学びの変革

教諭 佐藤 伸郎



二十六期〜三十一期まで六年間勤務しました。今年度から再び大好きな福島東高校に立候補して戻ってきました。一度目の勤務では、業務をこなすのに精一杯でした。今回の勤務では、東高校に新しい伝統を作り、学びの変革をもたらすことを模索しています。

東高といえば、文武両道で名を馳せています。以前は、朝早くから課外をし、放課後の課外、二次課外もありました。土曜日にも課外または模擬試験を実施しました。授業は完全授業のため自習がなく、大会出張後には、同じクラスを一日に二回や三回行って授業しました。課題は、えげつない量を要求していました。生徒は期限に間に合いそうもないので、答えを書写して提出していました。朝自習では、生徒を階段で待ち構えており、

遅刻した生徒を別室に連れて行って説教していました。小テストには合格するまで何度でもやらされました。毎日昼休みに追試、追追試、追追追試。昼休みもないまま指導していました。

第一志望の国公立大学に合格するためには、いかなる苦勞もやむを得ないとずっと思って指導してきました。しかし、現在は先行き不確定な時代に変化しています。また、ある大学の先生の言葉と卒業生の言葉を聞いて、指導を変えていかねばならないと思うようになりました。

大学の先生からは、東高校卒は指示待ち人間で困ると言われました。「何をすれば良いですか?」「宿題を出してください」と言ってくるそうです。全員ではないと思いますが、びつくりしました。

ある生徒からは、「希望の大学には合格しましたが、勉強が嫌いになりました。」と言って卒業してしまいました。私は大いに反省しました。本来、校歌の二番にあるように「学ぶことは日々を新しくすること」学ぶことはなにより楽しいことであるはずですが。知識注入に偏重し過ぎたため、生徒の人生を創造性がなく、単調なものにしてしまったのだとしたら教員として重い罪

であると考えました。

自ら学びを掴みに行かなければ学びは楽しいと感じません。現在はICT化・デジタル化も進み、分らないことを容易に調査できるようになりました。玉石混交の情報の中からファクトチェックを駆使し、自分に必要な情報を集めることができます。自分の関心を持った学問分野の課題を自ら発見し、探究しながら課題方法を考えることのできる東高校生を育てていきたいです。東高校は昨年から教育コースも導入されました。東高校卒の学校の先生は、先進的で生徒の能力を引き出すのが上手だと言われる先生を育てたいです。

授業「総合的な探究の時間」を上手に活用しながら、先生方とも協力し、実社会で探究する機会を生徒に与えていきます。同窓生への取材等もどんどん行かせることになりそうですので、その際はご協力ください。



編集後記

福島東高校同窓会会報の発行にあたり、御多用の中同窓会関係の皆様をはじめ、原稿や資料を御寄稿頂きました皆様に厚く御礼申し上げます。

まずは何といつても「第二十二号」という節目を迎えることができ、これまで御寄稿いただきました多くの同窓生・関係者の皆様、作成に御協力いただいた皆様に改めて感謝申し上げます。今年度は五月に新型コロナウイルスが第五類へと移行したことに伴い、社会はもちろんのこと、学校現場もコロナ前の活気を取り戻したように感じます。もちろん

ん感染症対策は念頭におきながらも、修学旅行をはじめとする様々な校外での学校行事、校内で行われた文化祭では生徒会が中心となつて「全校生参加企画」が行われ、マラソン大会も十一月に無事開催されました。

四年という長い間、新型コロナウイルスにより様々なことを制限されてきましたが、やっと辛い時期を抜けて社会が戻ってきたと感じる一年となりました。しかしながら、四年前と全てが同じではなく、コロナ禍の中で恩恵ともいえるICT化が進んだことで、少しアップデートされた新しい形で、社会や学校が形成されているようにも感じております。

今年度は、新課程での大学入学共通テストで必須となる教科「情報Ⅰ」の授業を担当し、授業の中では「二〇三〇年という新しい社会の中心を生きる皆さん」ということを念頭に置いて様々な内容を教えておりますが、私自身もアップデートし、新しい指導観や教師観を持たなければと焦りを感じていました。そのような中、十一月上旬に私が高校一年のときの校長であつた齋藤和也先生のお話を聞く機会がありました。具体的なお話の内容は割愛しますが、和也先生の持つ「東高校への愛情、東高校へ寄せる思い等々」言葉には表せないほどの「熱さ・思い」というものをお話の中で頂

戴し、自分の教師としての考えを見つめ直す機会となりました。そして、「不易流行」という言葉を強く意識した瞬間でした。今年四十という年齢になります。これまでの「若い」が通用しない年齢となり、まだ地に足が付かない自分に焦りを感じておりましたが、和也先生のお話で自分が感じた教員として変えてはいけないことは守りつつ、社会の変化に対応し変化を恐れずこれからの教員人生を頑張っていきたいと思いました。社会が大きく変化する中、同窓生の皆様におかれましては、御多忙の方がたくさんいらっしゃるかと思います。そのような中でも同窓会報を手に取り少

してもお読みいただいたことに感謝申し上げます。この会報をきっかけに、旧友と久しぶりに連絡を取るきっかけになればと考えております。今年こそはよりリアルに繋がれる機会も増えるかと思ひますので、その時のこの会報を話題の一つにしていただければ嬉しく思います。結びになりますが、同窓生の皆様方におかれましては、今後とも本校の教育活動に対し、御指導・御支援賜りますようお願い申し上げます。

（二十期生 羽田 真幸）

令和4年度 転出者

職名	氏名	転出先
教頭	名嶋明宏	橘高校
教諭	松本仁子	退職（福島高校）
教諭	荻野敬史	退職（相馬高校）
教諭	小野桃子	伊達高校
教諭	澤田美喜	郡山東高校
教諭	長池裕美	郡山萌世高校
教諭	佐藤茂雄	二本松実業高校
教諭	真柴毅	福島工業高校
再任用教諭	安齋守	退職
常勤講師	二瓶晃一	退職（福島南高校）
非常勤月手当講師	菅野拓海	退職（新採用 いわき湯本高校）
時間講師	安藤祥都	退職（新採用 千葉県立高校）
主任学校司書	阿部千春	退職（本校継続）

令和5年度 転入者

職名	氏名	前勤務先	教科
教頭	森敏行	安達高校	英語
教諭	前田裕子	安達東高校	国語
教諭	阿部善重	修明高校	国語
教諭	高野将徳	県北教育事務所	地歴・公民
教諭	佐藤伸郎	福島西高校	理科
教諭	高橋宏之	安積黎明高校	理科
教諭	赤城しのぶ	保原高校	英語
再任用教諭	加藤聡	福島西高校	数学
再任用教諭	安齋雅高	福島工業高校	芸術(美術)
任期付常勤講師	南條かおる	福島南高校	英語
非常勤月手当講師	菅野和弘	福島高校	理科
時間講師	町田郁弥	新採用	地歴・公民
時間講師	安藤ゆずな	福島高校	数学
時間講師	金川勇次	福島高校	英語
再任用教諭	鬼満亮	継続	数学
養護助教諭(月手)	平塚知世	継続	
時間講師	佐藤智恵美	継続	英語
時間講師	富山和美	継続	家庭
専門員	阿部千春	継続	
ポイラー技士兼校務員	菅野嘉之	継続	
校務員	牧野弘	継続	
業務員	菅野秀之	継続	
PTA雇用(兼:校長協会雇用職員)	對馬綾子	継続	
スクールサポートスタッフ	児玉紀子	継続	

令和5年度 教育実習生

（同窓生のみ）

氏名	実習教科	期生
玉上 黎	情報	36期
安田 宏大	数学	38期
加藤 祐樹	化学	38期
佐藤 壮志	日本史	38期
原田 康希	数学	38期
内藤 茜	音楽	38期
瀬田川大輝	保健体育	38期
安齋 憂輝	保健体育	38期
井上 舜太	保健体育	38期
佐藤 歩	国語	38期